

令和 7 年度
国分寺市市民アンケート調査
報 告 書

【概 要 版】

令和 7 年 8 月
国 分 寺 市

＜調査の目的＞

本調査は、市民の生活意識や市の施策に対する考えを把握し、国分寺市ビジョン実行計画における各施策の進捗管理の基礎資料にするとともに、市政運営のための貴重な情報として活用することを目的としています。

＜調査の概要＞

- 調査対象 令和7年3月1日現在、国分寺市に住民登録している満18歳以上の市民
- 対象人数 3,000人
- 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
(住民基本台帳に登録されている満18歳以上の在住者を、それぞれ世代ごとに6つに区分し抽出)
- 調査期間 令和7年4月1日(火)～4月30日(水)
ただし、令和7年5月9日(金)到着分までを有効回答とした。
- 調査方法 郵送回答またはインターネット回答
- 有効回答数 1,161件(回収率:38.7%)
※上記のうち、インターネットによる回答は521件

＜報告書の表記＞

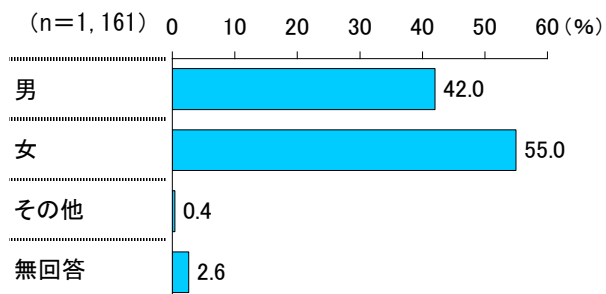
- 調査結果の回答比率はすべて百分率(%)で表しており、その質問の回答者数を基数として、百分率の小数点第2位を四捨五入して算出しています。このため、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は100%を超えます。
- 表グラフ中の「n」とは、その質問への回答者数を表します。
- 属性別のクロス集計では、属性項目の無回答を除いて集計しているため、属性の各項目の「n」の合計が「全体」と一致しない場合があります。
- 「居住地域」は、『国分寺市都市計画マスタープラン』(平成28年2月)による「生活行動の実態に即した空間の広がり(圏域)や地形等の自然的条件、土地利用の状況等を考慮した5地域」に区分して集計分析を行っています。
- 統計数値を考察するにあたり、割合の表現をおおむね以下の表記としています。

例	表 現
19.5～20.4%	2割
20.5～20.9%	約2割
21.0～23.9%	2割を超える
24.0～26.4%	2割半ば
26.5～28.9%	3割近く
29.0～29.4%	約3割
29.5～29.9%	3割

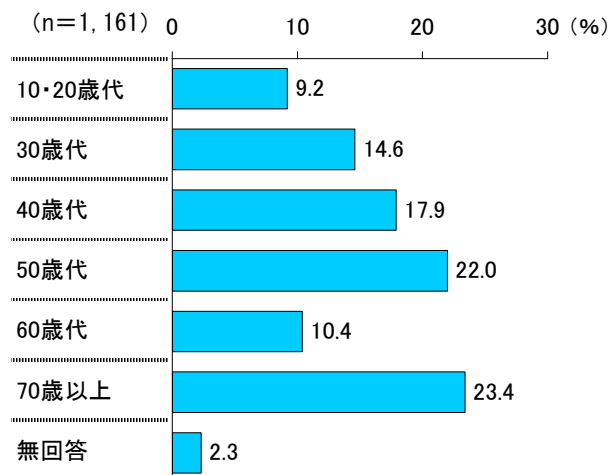
◇ 回答者の属性

(1) 性別・年齢

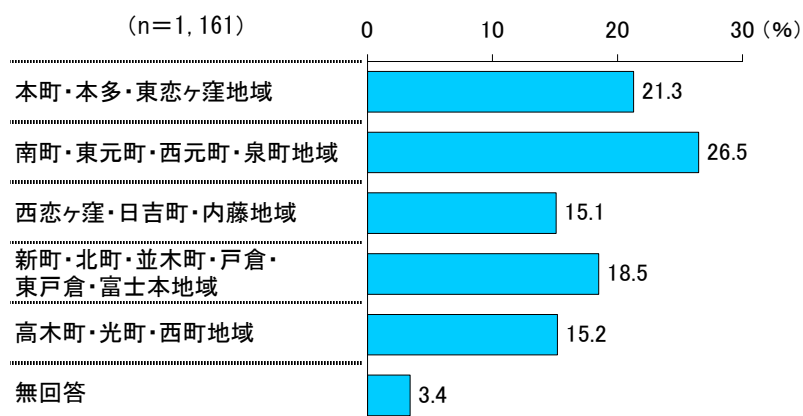
【性別】



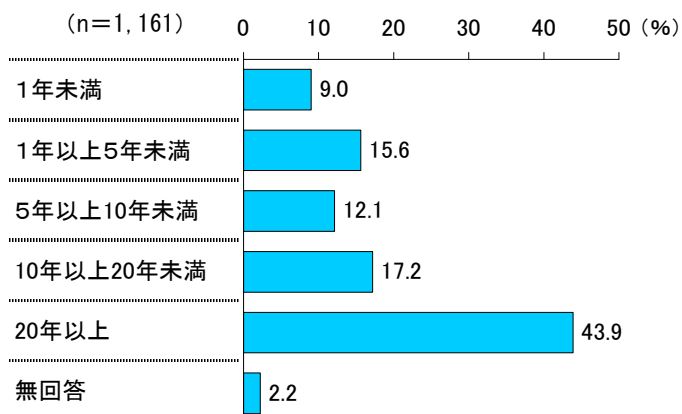
【年齢】



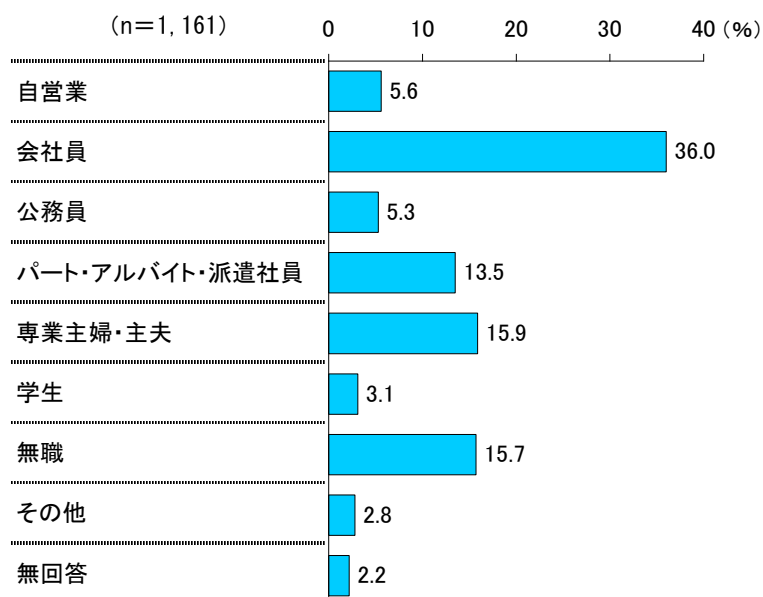
(2) 居住地



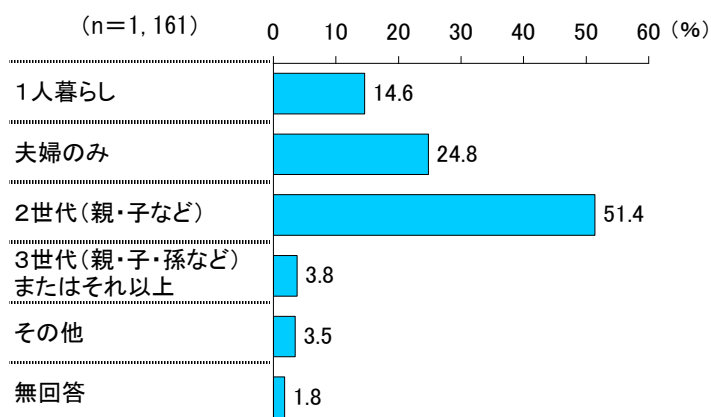
(3) 居住年数



(4) 職業

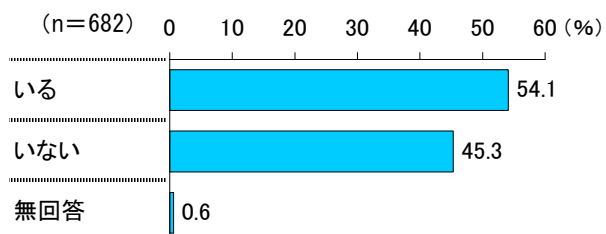


(5) 家族構成

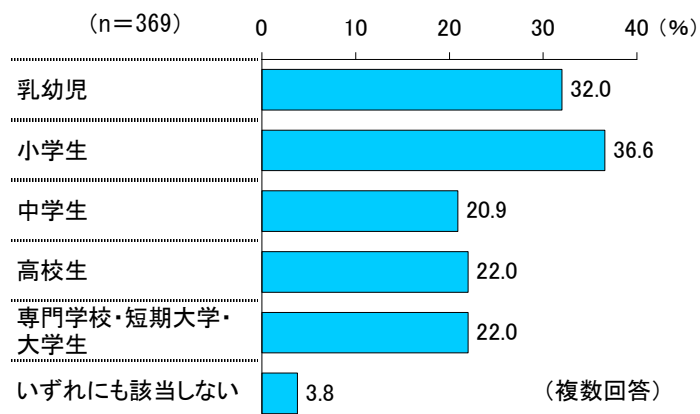


(6) 養育中の子どもの有無・段階

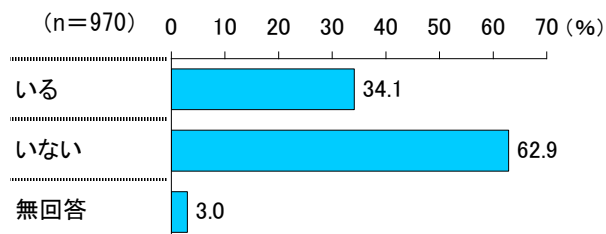
【養育中の子どもの有無】



【養育中の子どもの段階】



(7) 同居する65歳以上の家族の有無



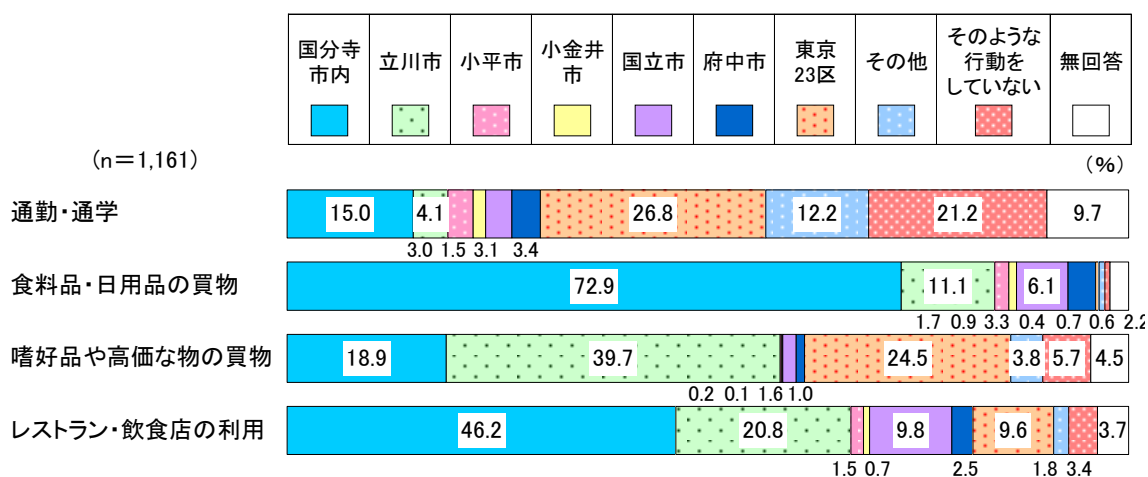
(8) 生活の行動範囲

通勤・通学での主な行き先は、「東京23区」(26.8%)が3割近くで最も高く、次いで「国分寺市内」(15.0%)、「その他」(12.2%)となっています。一方、「そのような行動をしていない」(21.2%)は2割を超えています。

食料品・日用品の買物での主な行き先は、「国分寺市内」(72.9%)が7割を超えて最も高く、次いで「立川市」(11.1%)、「国立市」(6.1%)となっており、そのほかの項目ではいずれも4%未満と低くなっています。

嗜好品や高価な物の買物での主な行き先は、「立川市」(39.7%)が4割で最も高く、次いで「東京23区」(24.5%)、「国分寺市内」(18.9%)となっています。

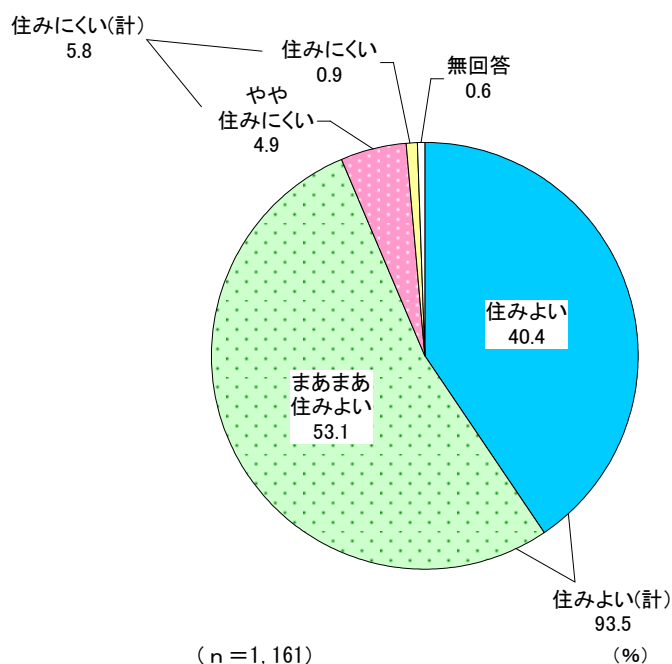
レストラン・飲食店の利用での主な行き先は、「国分寺市内」(46.2%)が4割半ばで最も高く、次いで「立川市」(20.8%)、「国立市」(9.8%)となっています。



◇ 住みやすさと定住意向

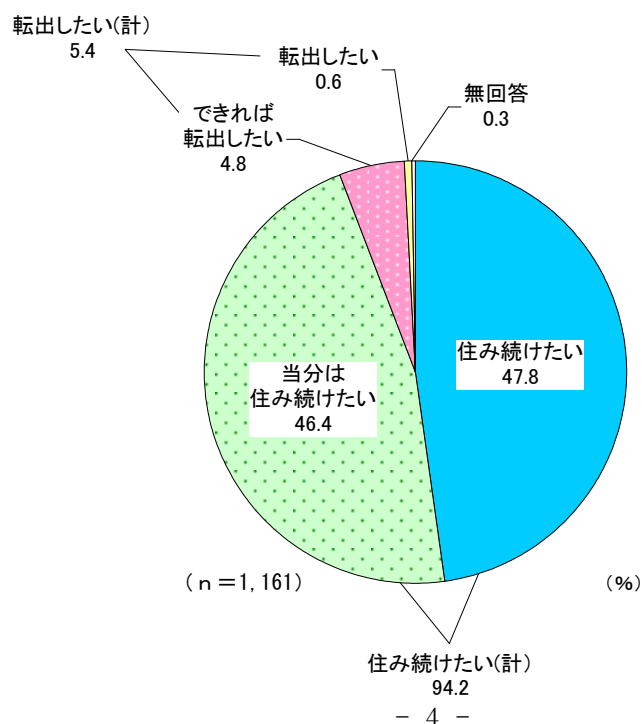
(1) 住みやすさ

住みやすさについては、「住みよい」(40.4%)と「まあまあ住みよい」(53.1%)を合わせた『住みよい(計)』(93.5%)は9割を超えています。一方、「やや住みにくい」(4.9%)と「住みにくい」(0.9%)を合わせた『住みにくい(計)』(5.8%)は1割未満となっています。



(2) 定住意向

定住意向については、「住み続けたい」(47.8%)と「当分は住み続けたい」(46.4%)を合わせた『住み続けたい(計)』(94.2%)は9割半ばとなっています。一方、「できれば転出したい」(4.8%)と「転出したい」(0.6%)を合わせた『転出したい(計)』(5.4%)は1割未満となっています。

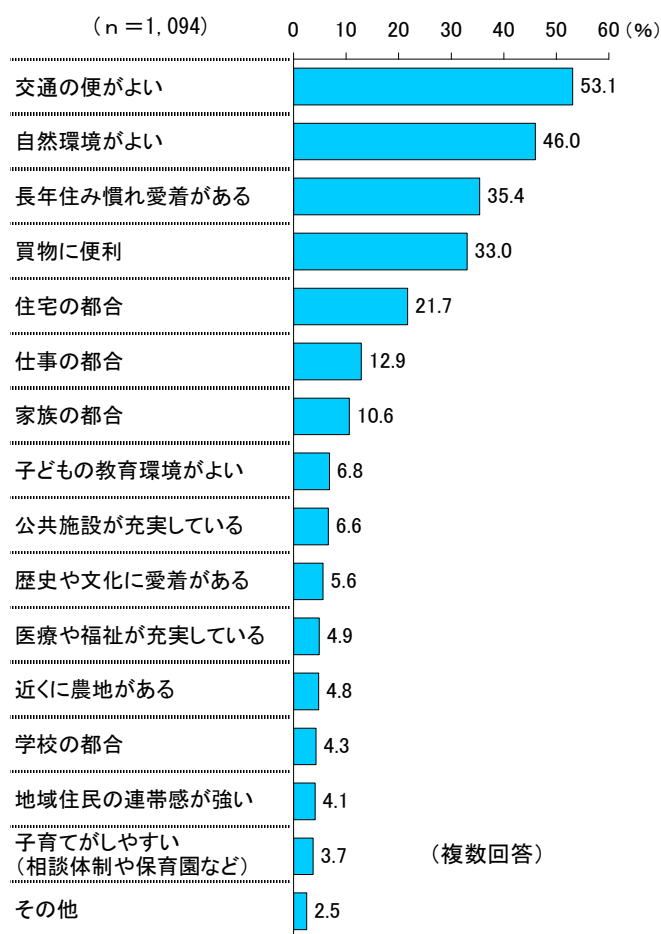


（３）住み続けたい理由／転出したい理由

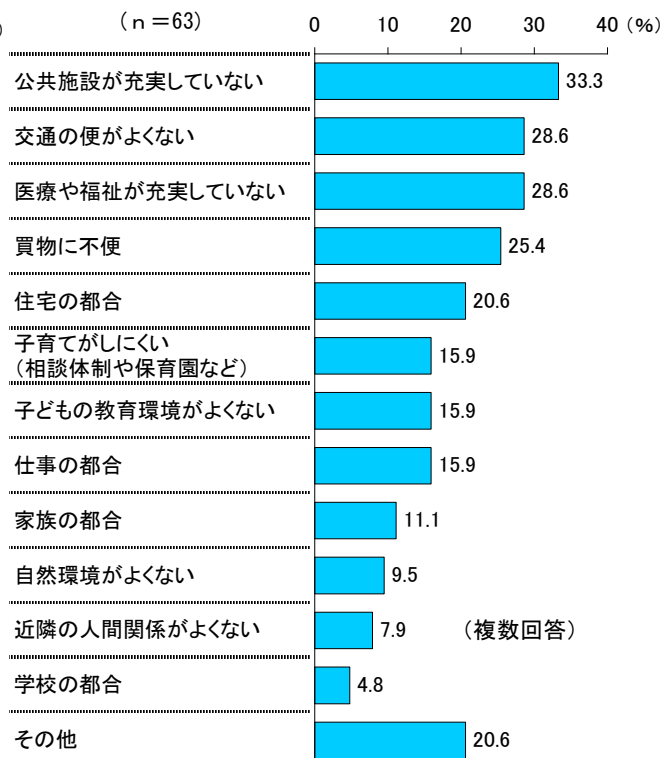
住み続けたい理由としては、「交通の便がよい」（53.1％）が５割を超えて最も高く、次いで「自然環境がよい」（46.0％）、「長年住み慣れ愛着がある」（35.4％）、「買物に便利」（33.0％）、「住宅の都合」（21.7％）となっています。

転出したい理由としては、「公共施設が充実していない」（33.3％）が３割を超えて最も高く、次いで「交通の便がよくない」と「医療や福祉が充実していない」（ともに28.6％）、「買物に不便」（25.4％）、「住宅の都合」（20.6％）となっています。

【住み続けたい理由】



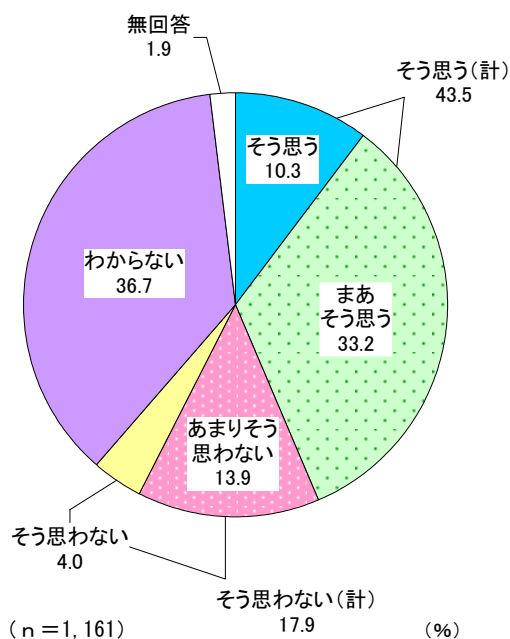
【転出したい理由】



◇ 子ども・学び・文化

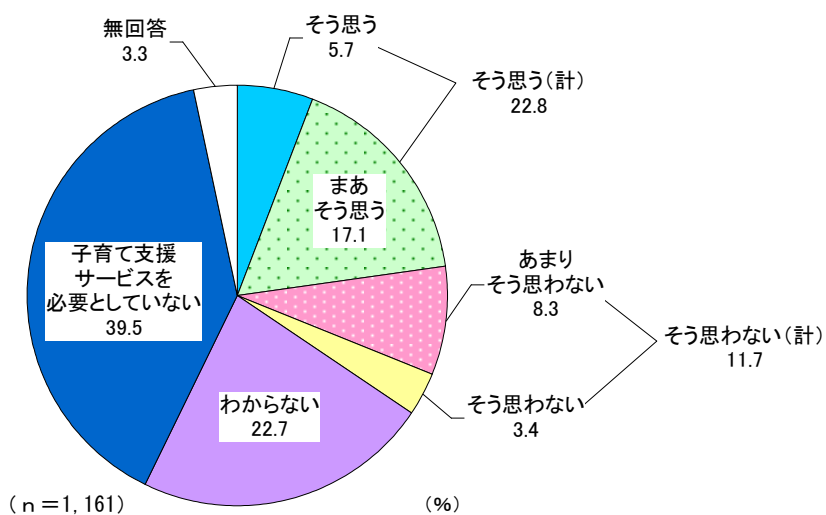
(1) 子育て施設の整備状況

身近に子育て施設が十分に整っていると思うかについては、「そう思う」(10.3%)と「まあそう思う」(33.2%)を合わせた『そう思う(計)』(43.5%)は4割を超えています。一方、「あまりそう思わない」(13.9%)と「そう思わない」(4.0%)を合わせた『そう思わない(計)』(17.9%)は2割近くとなっています。



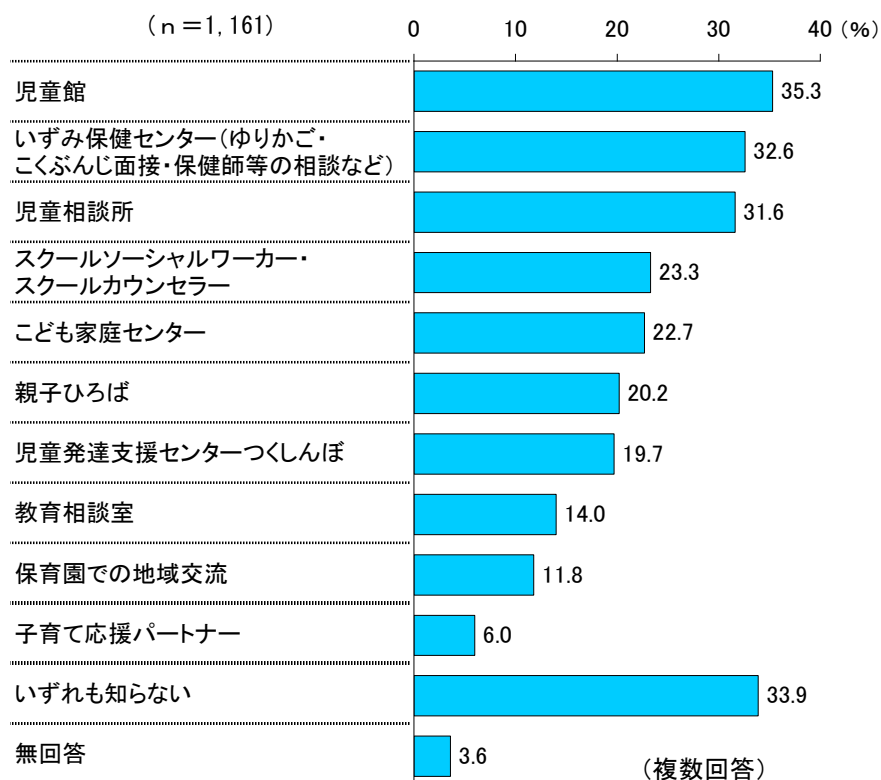
(2) 子育て支援サービスの利用状況

必要な子育て支援サービスを利用できていると思うかについては、「そう思う」(5.7%)と「まあそう思う」(17.1%)を合わせた『そう思う(計)』(22.8%)は2割を超えています。一方、「あまりそう思わない」(8.3%)と「そう思わない」(3.4%)を合わせた『そう思わない(計)』(11.7%)は1割を超えています。



(3) 子育てに関する相談場所

子どもに関する悩みや心配事の相談場所（相談先）の認知状況は、「児童館」（35.3%）が3割半ばで最も高く、次いで「いずみ保健センター（ゆりかご・こくぶんじ面接・保健師等の相談など）」（32.6%）、「児童相談所」（31.6%）、「スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー」（23.3%）となっています。



(4) 若者支援※

※「若者支援」・・・ひきこもりなど社会生活を送る上で、何らかの悩みを抱える15歳(義務教育修了後)以上40歳未満の方の自立に向けた支援

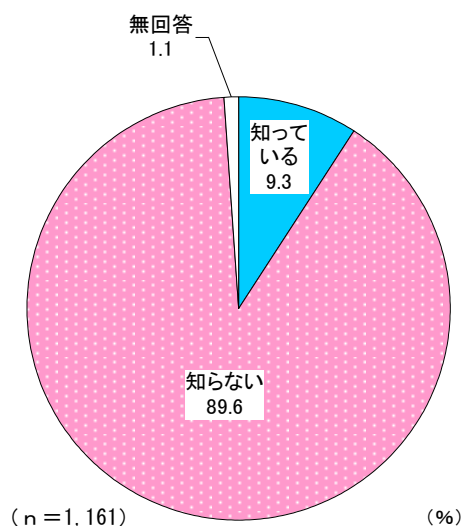
若者支援の認知状況は、「知っている」(9.3%)が約1割、「知らない」(89.6%)は9割となっています。

身近なひきこもり状態の若者の有無は、「いる」(4.8%)が1割未満、「いない」(94.1%)は9割半ばとなっています。

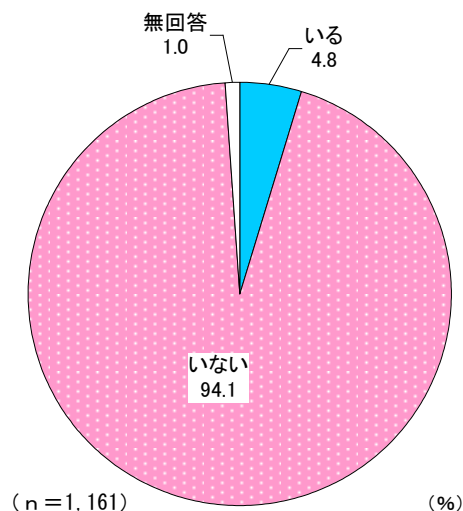
身近なひきこもり状態の若者の年齢は、「30歳代」(41.1%)が4割を超えて最も高く、次いで「20歳代」(30.4%)、「15歳(義務教育修了後)以上19歳以下」(21.4%)となっています。

身近なひきこもり状態の若者に関する相談先の認知状況は、「市役所の相談窓口」(21.4%)が2割を超え、「相談できる地域の人(民生委員・児童委員など)」(19.6%)は2割となっています。一方、「知らない」(58.9%)は6割近くとなっています。

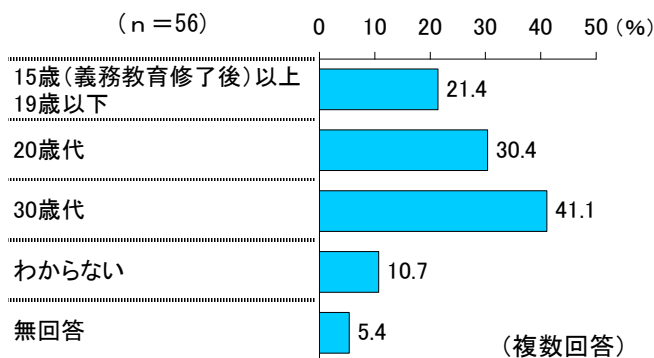
【若者支援の認知状況】



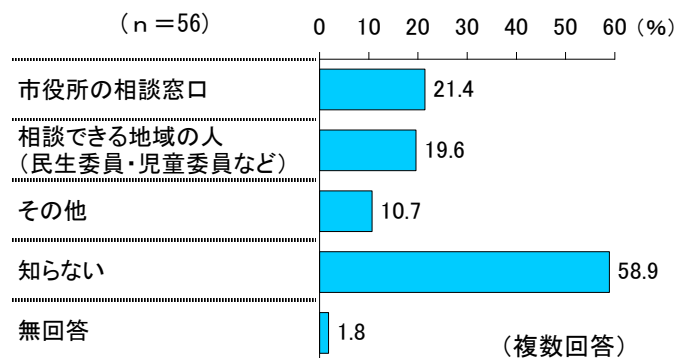
【身近なひきこもり状態の若者の有無】



【身近なひきこもり状態の若者の年齢】



【身近なひきこもり状態の若者に関する相談先の認知状況】



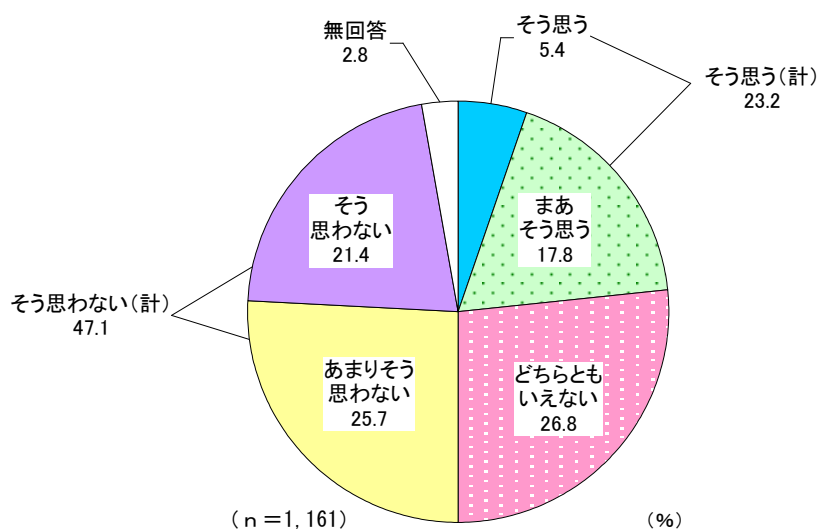
(5) 文化芸術／学習体験

市内で文化芸術に触れることができていると思うかについては、「そう思う」(5.4%)と「まあそう思う」(17.8%)を合わせた『そう思う(計)』(23.2%)は2割を超えています。

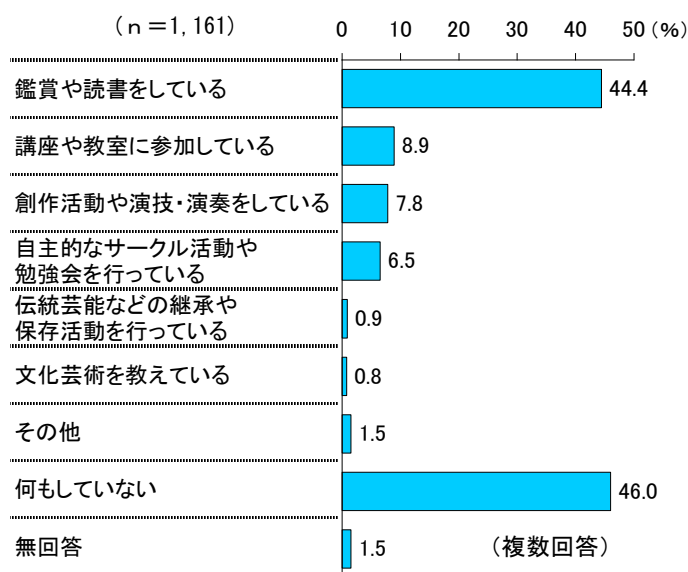
過去1年間で行った文化芸術活動は、「鑑賞や読書をしている」(44.4%)が4割半ばで最も高く、次いで「講座や教室に参加している」(8.9%)、「創作活動や演技・演奏をしている」(7.8%)となっています。一方、「何もしていない」(46.0%)は4割半ばとなっています。

過去1年間で行った学習体験は、「インターネットで調べものをした」(46.8%)が5割近くで最も高く、次いで「読書をした」(46.3%)、「コンサート・観劇に行った」(30.0%)、「美術館・博物館に行った」(27.8%)となっています。一方、「何もしていない」(27.0%)は3割近くとなっています。

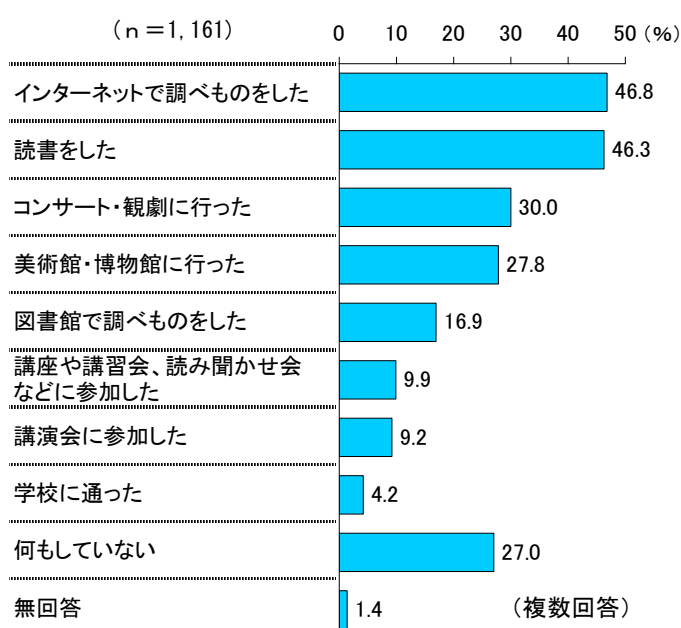
【文化芸術体験】



【文化芸術活動】

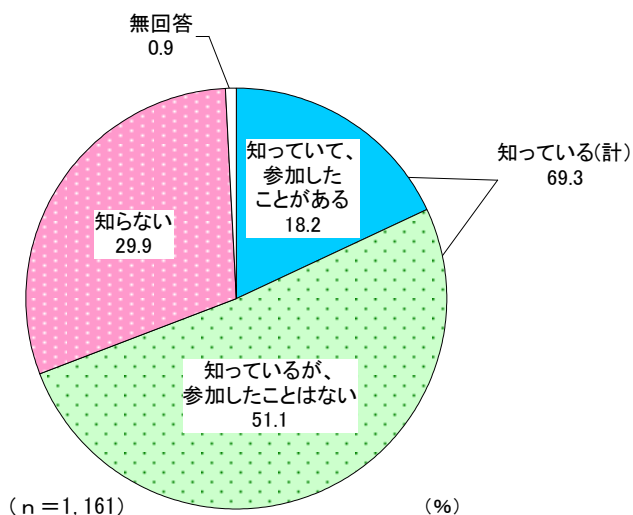


【学習体験】



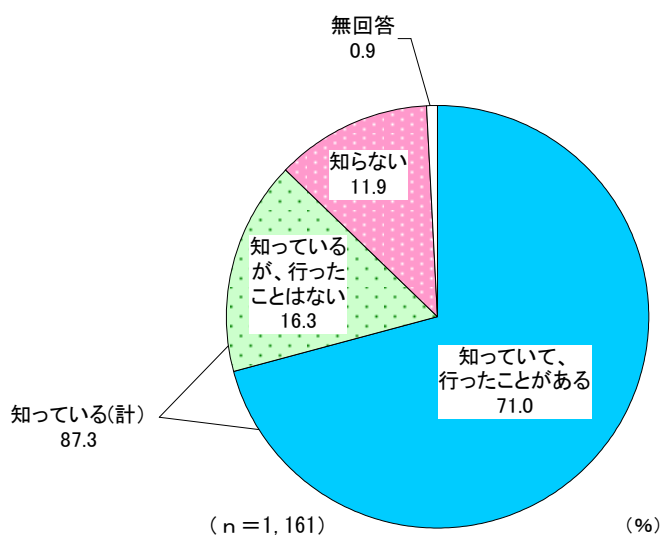
（６）公民館・図書館の事業の認知度

公民館・図書館で実施している事業の認知度は、「知っていて、参加したことがある」（18.2％）と「知っているが、参加したことはない」（51.1％）を合わせた『知っている（計）』（69.3％）は約7割となっています。一方、「知らない」（29.9％）は3割となっています。



（７）史跡の認知度

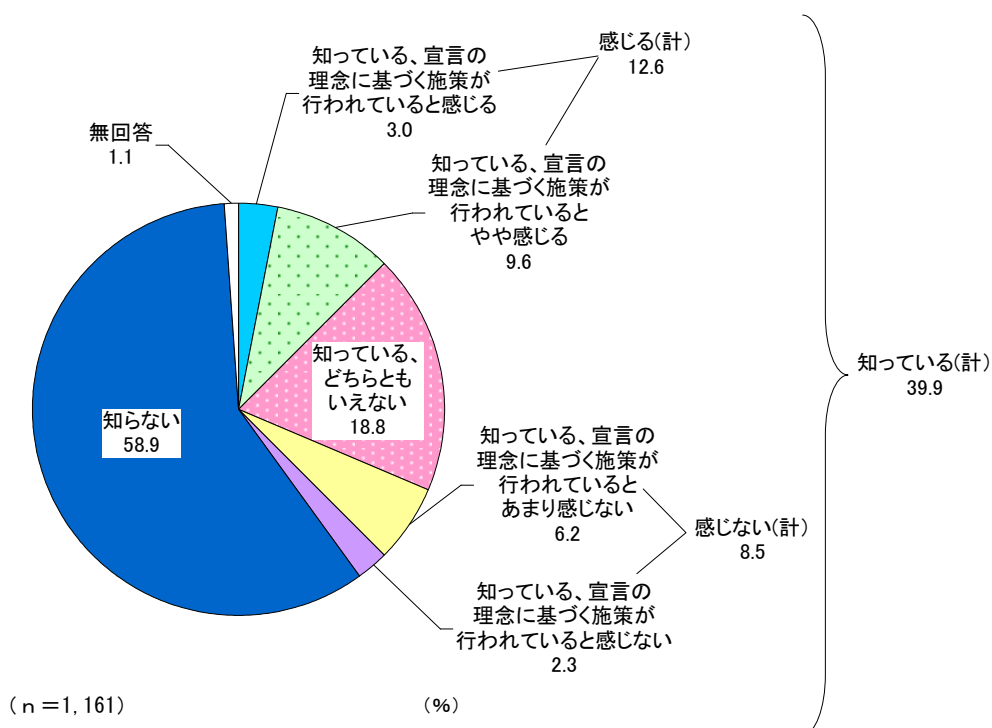
史跡武蔵国分寺跡の認知度は、「知っていて、行ったことがある」（71.0％）と「知っているが、行ったことはない」（16.3％）を合わせた『知っている（計）』（87.3％）は9割近くとなっています。一方、「知らない」（11.9％）は1割を超えています。



(8) 「国分寺市すべての人を大切にするまち宣言」の認知度・理念に基づく施策の実施

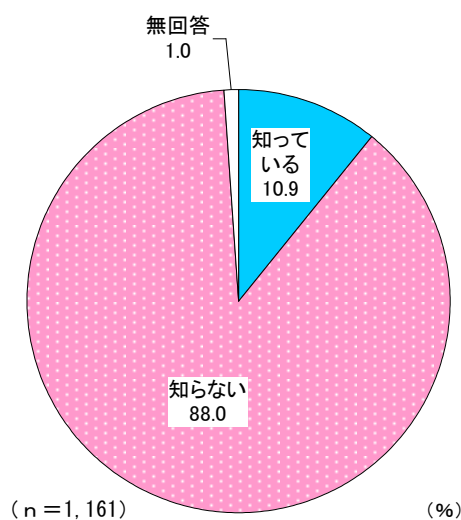
「国分寺市すべての人を大切にするまち宣言」の認知度は、「知っている、宣言の理念に基づく施策が行われていると感じる」(3.0%)、「知っている、宣言の理念に基づく施策が行われているとやや感じる」(9.6%)、「知っている、どちらともいえない」(18.8%)、「知っている、宣言の理念に基づく施策が行われているとあまり感じない」(6.2%)、「知っている、宣言の理念に基づく施策が行われていると感じない」(2.3%)を合わせた『知っている(計)』(39.9%)は4割となっています。一方、「知らない」(58.9%)は6割近くとなっています。

また、「国分寺市すべての人を大切にするまち宣言」の理念に基づく施策が行われていると感じるかは、「知っている、宣言の理念に基づく施策が行われていると感じる」(3.0%)と「知っている、宣言の理念に基づく施策が行われているとやや感じる」(9.6%)を合わせた『感じる(計)』(12.6%)は1割を超えています。一方、「知っている、宣言の理念に基づく施策が行われているとあまり感じない」(6.2%)と「知っている、宣言の理念に基づく施策が行われていると感じない」(2.3%)を合わせた『感じない(計)』(8.5%)は1割未満となっています。



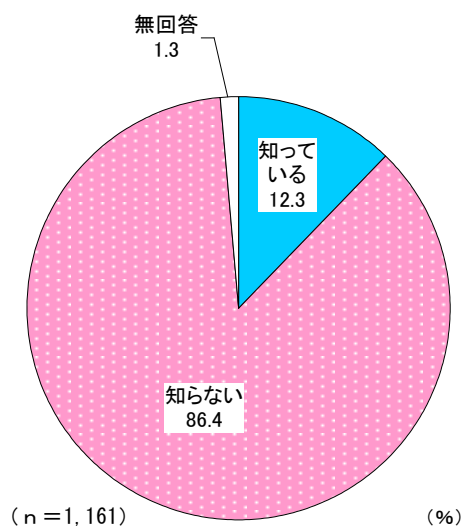
(9) 男女平等推進センターの認知度

男女平等推進センターの認知度は、「知っている」(10.9%)が約1割、「知らない」(88.0%)は9割近くとなっています。



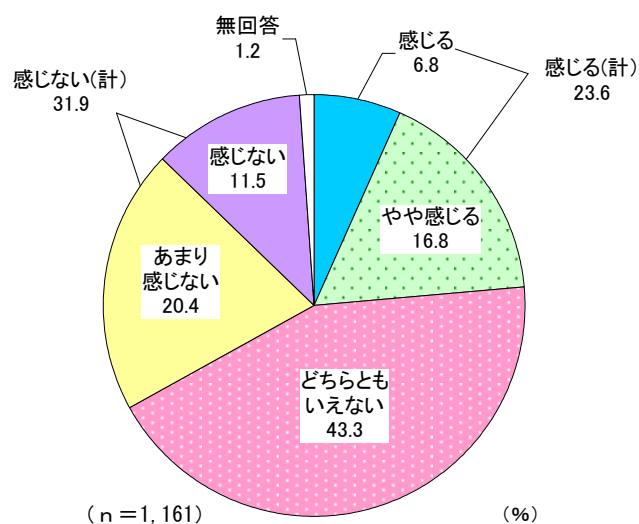
(10) 「パートナーシップ制度」や「多様な性」などの認知度

「パートナーシップ制度」や「多様な性」などの認知度は、「知っている」(12.3%)が1割を超え、「知らない」(86.4%)は8割半ばとなっています。



(11) 誰もが活躍できる環境づくりの推進

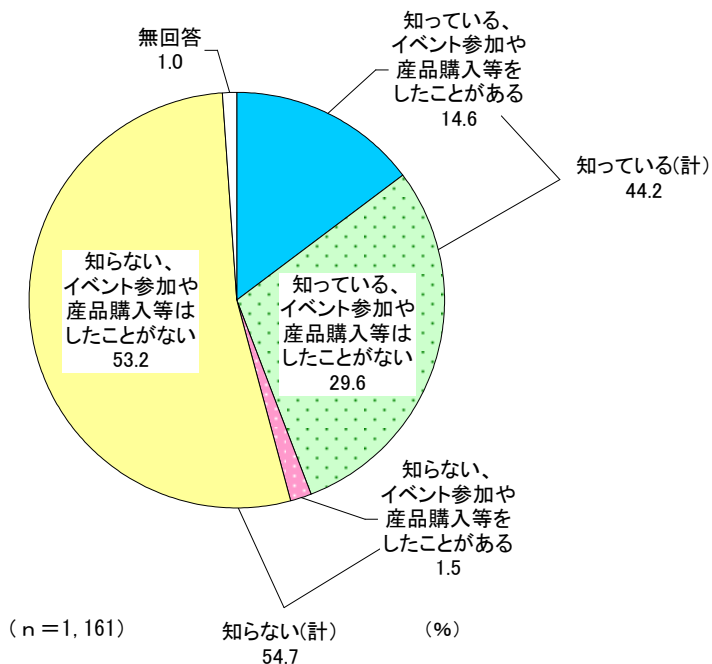
誰もが活躍できる環境づくりが推進されていると感じるかについては、「感じる」(6.8%)と「やや感じる」(16.8%)を合わせた『感じる(計)』(23.6%)は2割を超えています。一方、「あまり感じない」(20.4%)と「感じない」(11.5%)を合わせた『感じない(計)』(31.9%)は3割を超えています。また、「どちらともいえない」(43.3%)は4割を超えています。



◇ 地域振興

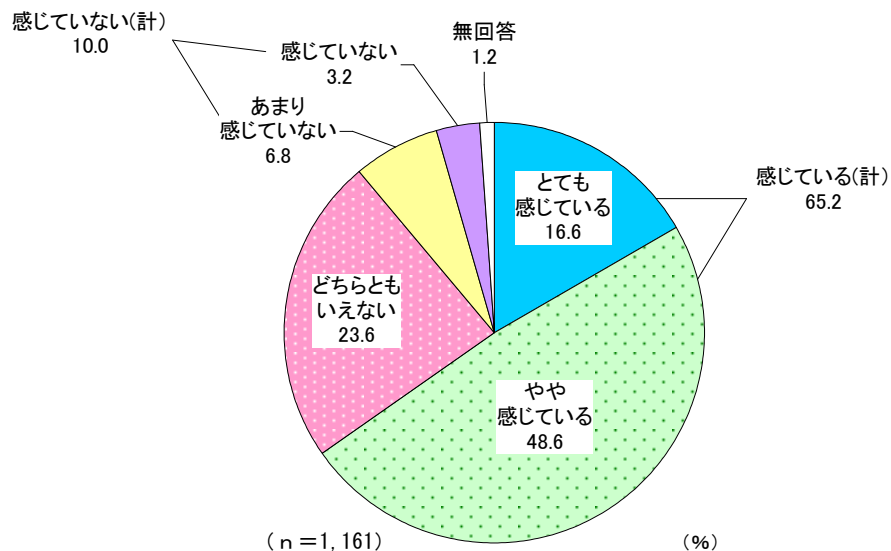
（１）姉妹都市・友好都市の認知度

姉妹都市・友好都市の認知度は、「知っている、イベント参加や産品購入等をしたことがある」（14.6％）と「知っている、イベント参加や産品購入等はしたことがない」（29.6％）を合わせた姉妹都市・友好都市を『知っている（計）』（44.2％）は4割半ばとなっています。一方、「知らない、イベント参加や産品購入等をしたことがある」（1.5％）と「知らない、イベント参加や産品購入等はしたことがない」（53.2％）を合わせた姉妹都市・友好都市を『知らない（計）』（54.7％）は5割半ばとなっています。



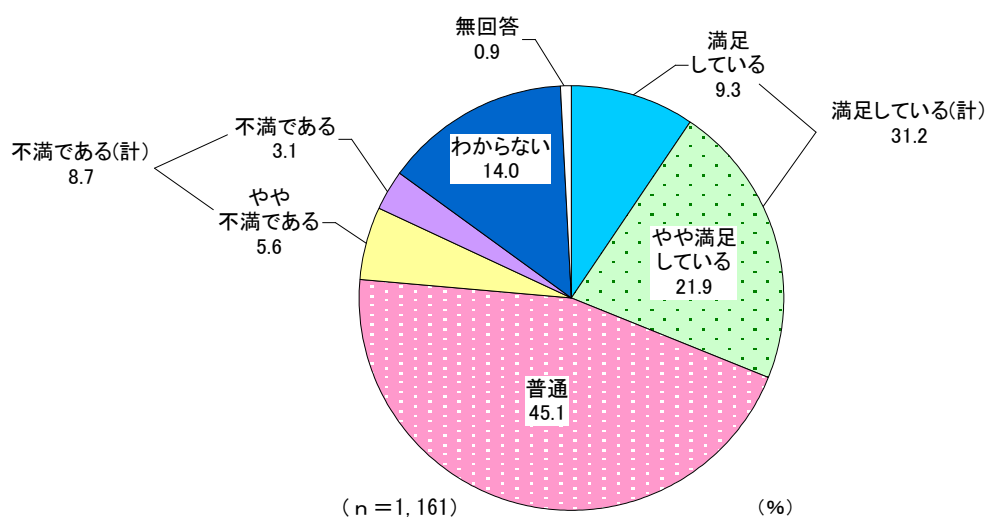
（２）愛着や誇り

国分寺市に対して愛着や誇りを感じているかについては、「とても感じている」（16.6％）と「やや感じている」（48.6％）を合わせた『感じている（計）』（65.2％）は6割半ばとなっています。一方、「あまり感じていない」（6.8％）と「感じていない」（3.2％）を合わせた『感じていない（計）』（10.0％）は1割となっています。



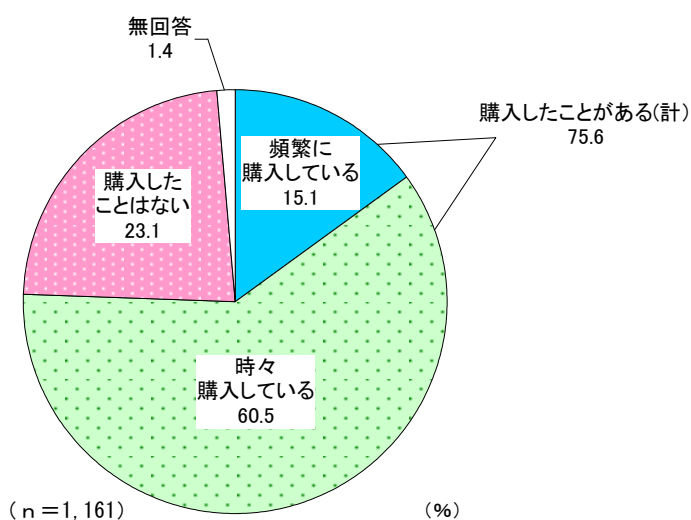
(3) 市内事業者への満足度

市内の事業者の商品品質・サービスに満足しているかについては、「満足している」(9.3%)と「やや満足している」(21.9%)を合わせた『満足している(計)』(31.2%)は3割を超えています。一方、「やや不満である」(5.6%)と「不満である」(3.1%)を合わせた『不満である(計)』(8.7%)は1割未満となっています。また、「普通」(45.1%)は4割半ばとなっています。



(4) 市の地場産農畜産物の購入

市の地場産農畜産物を購入したことがあるかについては、「頻繁に購入している」(15.1%)と「時々購入している」(60.5%)を合わせた『購入したことがある(計)』(75.6%)は7割半ばとなっています。一方、「購入したことはない」(23.1%)は2割を超えています。



（５）自治会・町内会活動／地域活動

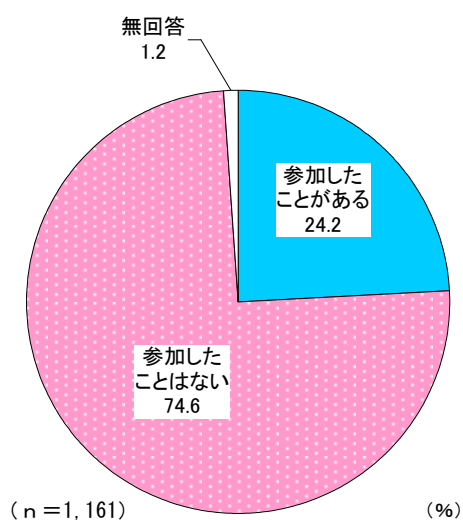
過去１年間の自治会・町内会活動への参加状況は、「参加したことがある」（24.2％）が２割半ば、「参加したことはない」（74.6％）は７割半ばとなっています。

過去１年間に参加したことがある地域活動は、「自治会・町内会活動」（22.1％）が２割を超えて最も高く、次いで「PTA活動」（4.0％）、「ボランティア活動」（3.7％）となっています。一方、「いずれにも参加していない」（70.2％）は７割となっています。

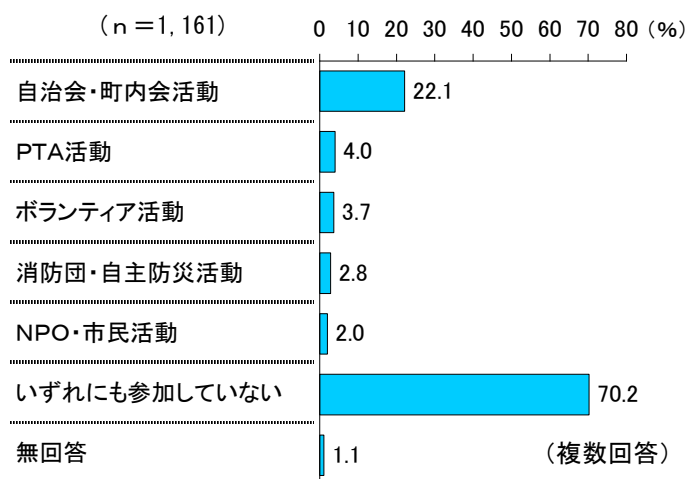
地域活動に興味があるかについては、「興味はある」（35.8％）が３割半ば、「興味がない」（64.0％）は６割半ばとなっています。

地域活動に興味はあるが参加していない理由については、「時間がない」（51.4％）が５割を超えて最も高く、次いで「参加方法がわからない」（35.3％）、「一緒に参加する仲間がいない」（28.1％）、「参加したい活動がない」（18.8％）となっています。

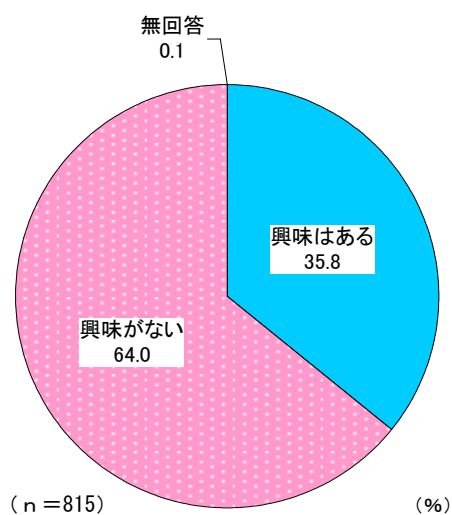
【自治会・町内会活動への参加状況】



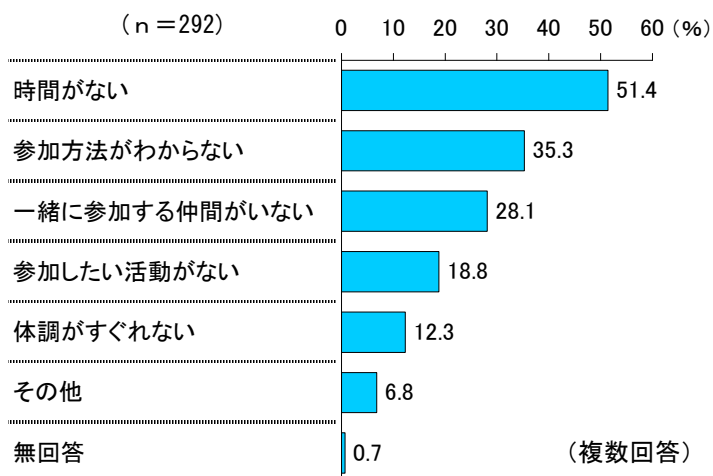
【地域活動への参加】



【地域活動への興味】



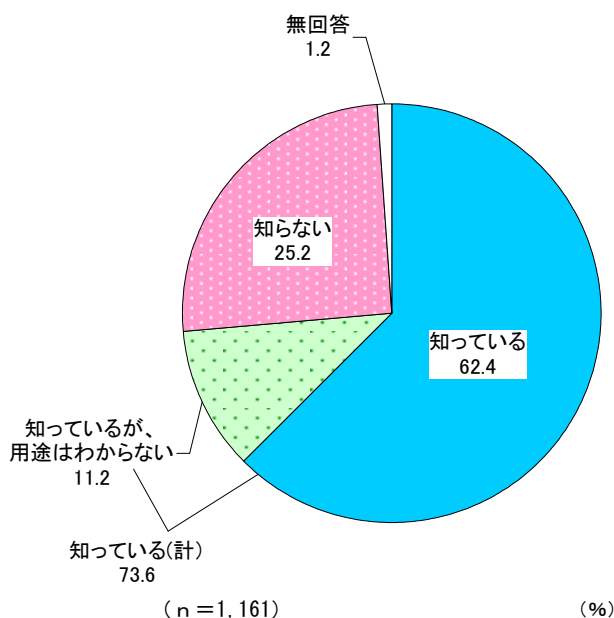
【地域活動に参加していない理由】



◇ 保健・福祉

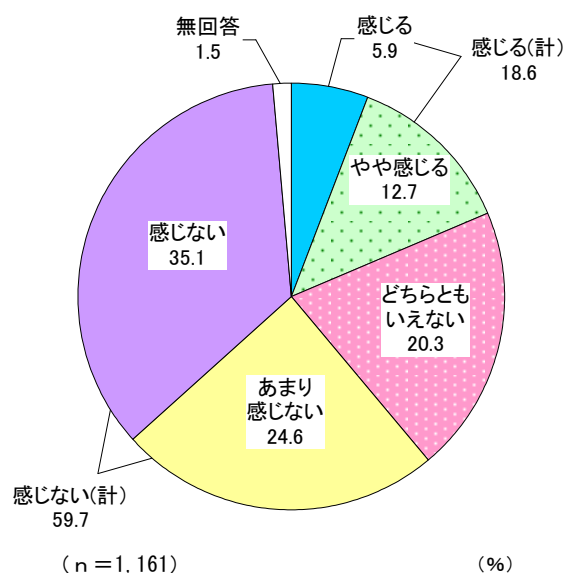
(1) ヘルプマークまたはヘルプカードの認知度

ヘルプマークまたはヘルプカードの認知度は、「知っている」(62.4%)と「知っているが、用途はわからない」(11.2%)を合わせた『知っている(計)』(73.6%)は7割を超えています。一方、「知らない」(25.2%)は2割半ばとなっています。



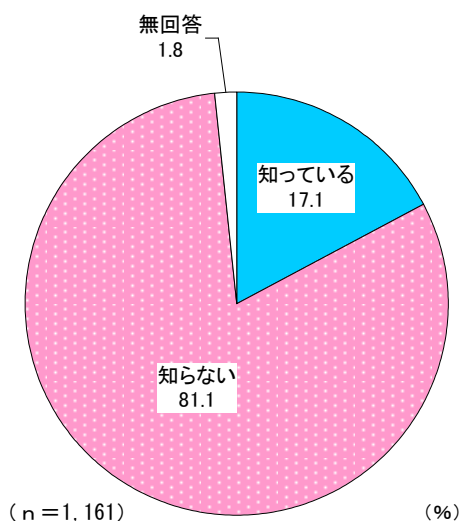
(2) 生活困窮の実感

現在、生活に困窮していると感じるかについては、「感じる」(5.9%)と「やや感じる」(12.7%)を合わせた『感じる(計)』(18.6%)は2割近くとなっています。一方、「あまり感じない」(24.6%)と「感じない」(35.1%)を合わせた『感じない(計)』(59.7%)は6割となっています。また、「どちらともいえない」(20.3%)は2割となっています。



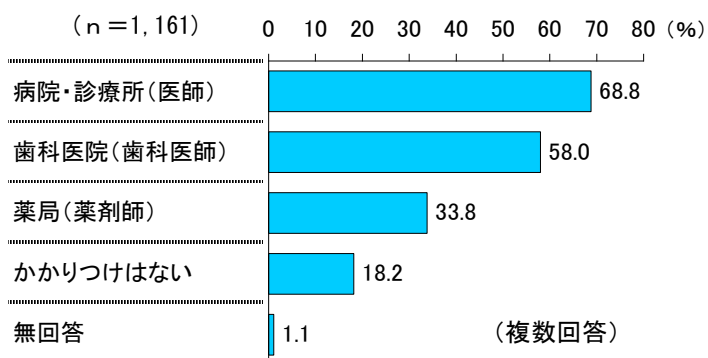
(3) 「自立生活サポートセンターこくぶんじ」の認知度

「自立生活サポートセンターこくぶんじ」の認知度は、「知っている」(17.1%)が2割近く、「知らない」(81.1%)は8割を超えています。



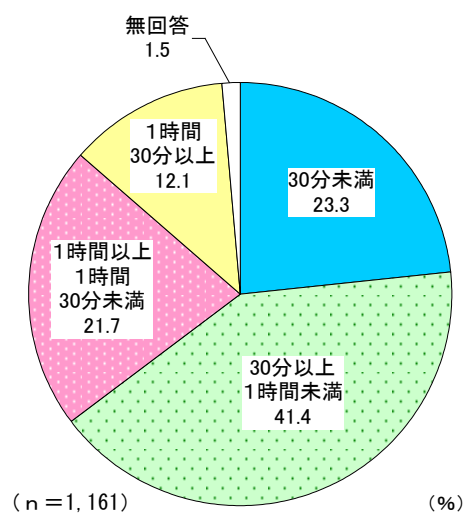
(4) かかりつけ医療機関

かかりつけ医療機関の有無は、「病院・診療所(医師)」(68.8%)が7割近く、「歯科医院(歯科医師)」(58.0%)が6割近く、「薬局(薬剤師)」(33.8%)は3割を超えています。一方、「かかりつけはない」(18.2%)は2割近くとなっています。



(5) 日常生活で歩く時間

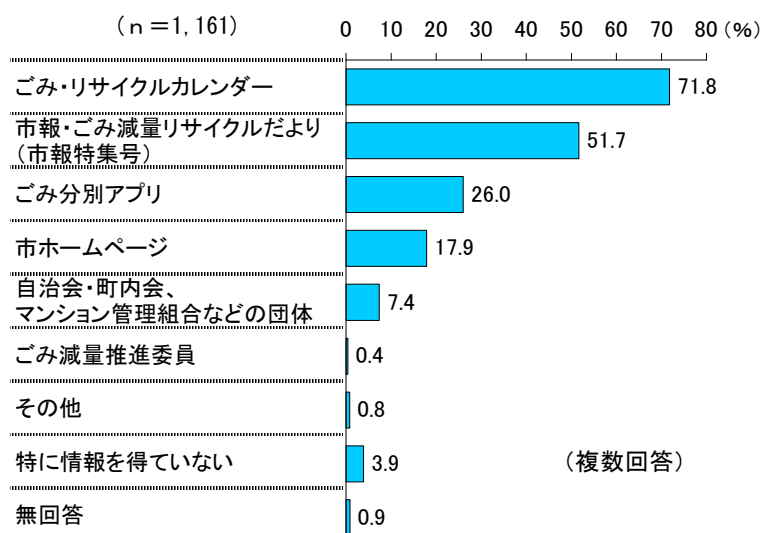
日常生活で1日に歩く時間は、「30分以上1時間未満」(41.4%)が4割を超えて最も高く、次いで「30分未満」(23.3%)、「1時間以上1時間30分未満」(21.7%)、「1時間30分以上」(12.1%)となっています。



◇ くらし・環境

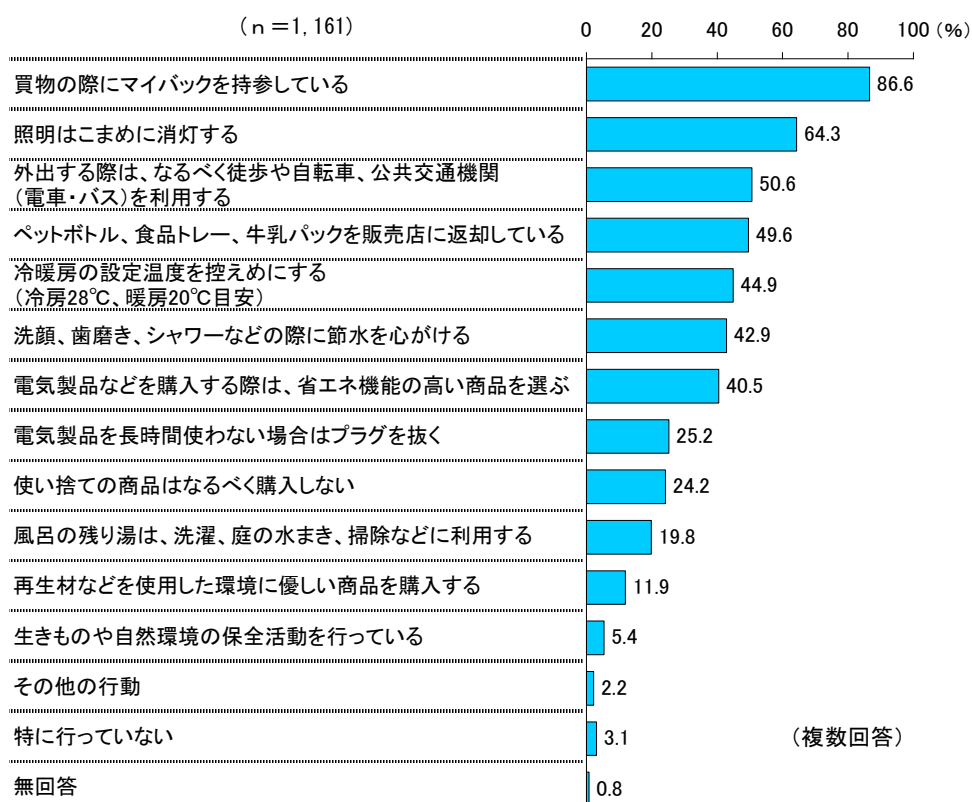
(1) ごみ処理に関する情報入手先

ごみの減量や分別、リサイクルに関する情報入手先は、「ごみ・リサイクルカレンダー」(71.8%) が7割を超えて最も高く、次いで「市報・ごみ減量リサイクルだより (市報特集号)」(51.7%)、「ごみ分別アプリ」(26.0%)、「市ホームページ」(17.9%) となっています。



(2) 環境に配慮した行動

環境に配慮して行っていることは、「買物の際にマイバックを持参している」(86.6%) が9割近くで最も高く、次いで「照明はこまめに消灯する」(64.3%)、「外出する際は、なるべく徒歩や自転車、公共交通機関 (電車・バス) を利用する」(50.6%)、「ペットボトル、食品トレー、牛乳パックを販売店に返却している」(49.6%) となっています。



(3) 家庭での再生可能エネルギーの利用状況や省エネルギー機器の導入状況

家庭での再生可能エネルギー設備、省エネルギー機器の導入状況は、以下のとおりとなっています。

①太陽光発電システム

「導入しない（または関心がない）」（61.8%）が6割を超えて最も高くなっています。

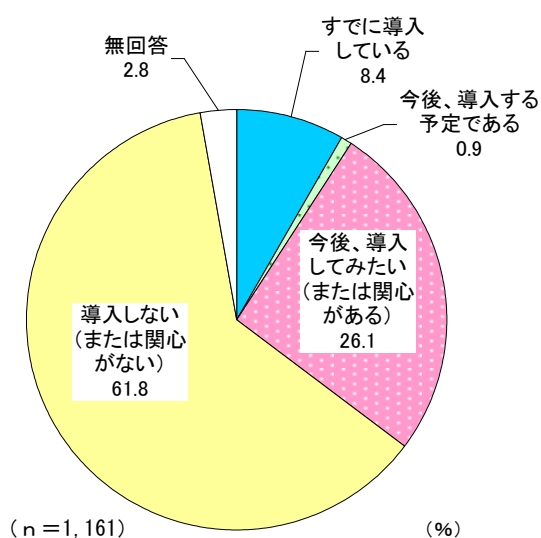
②次世代自動車（電気自動車、燃料電池車、プラグインハイブリッド自動車、ハイブリッド車）

「導入しない（または関心がない）」（57.8%）が6割近くで最も高くなっています。

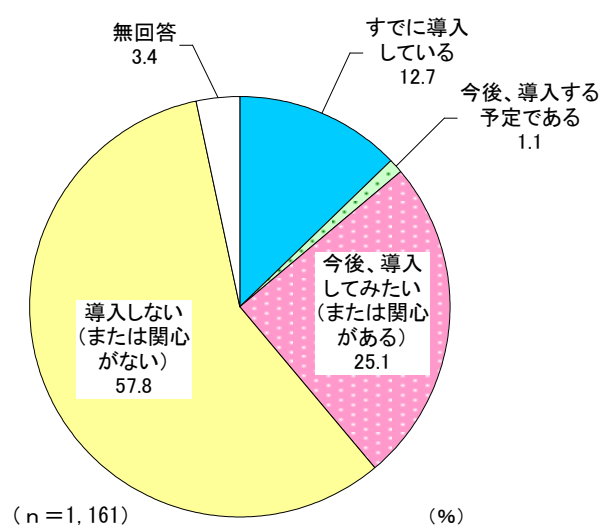
③再生エネルギー由来電力（再生可能エネルギーの比率が高い電力メニューの契約）

「導入しない（または関心がない）」（52.0%）が5割を超えて最も高くなっています。

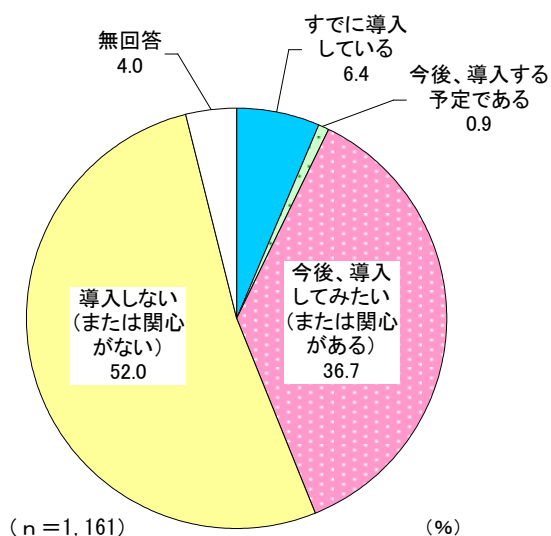
【太陽光発電システム】



【次世代自動車】

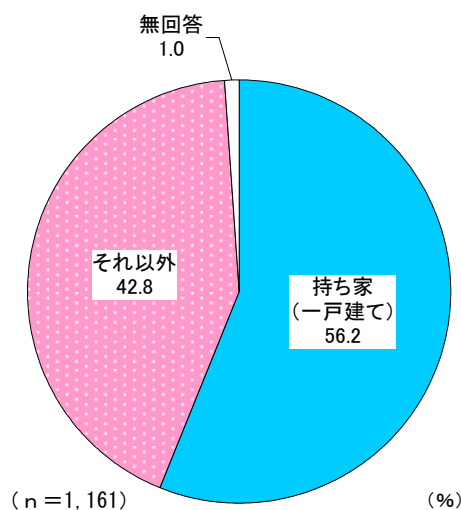


【再生エネルギー由来電力】



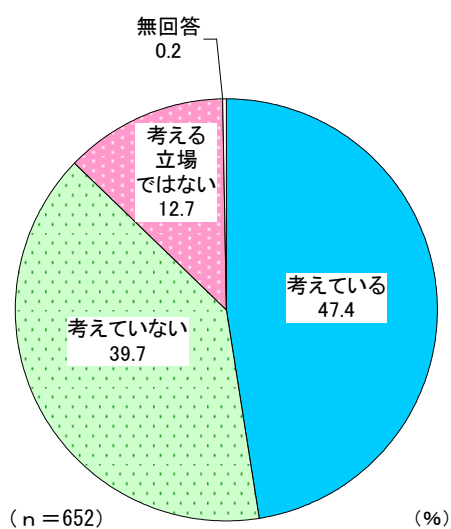
(4) 居住形態

居住形態は、「持ち家（一戸建て）」（56.2%）が5割半ば、「それ以外」（42.8%）は4割を超えています。



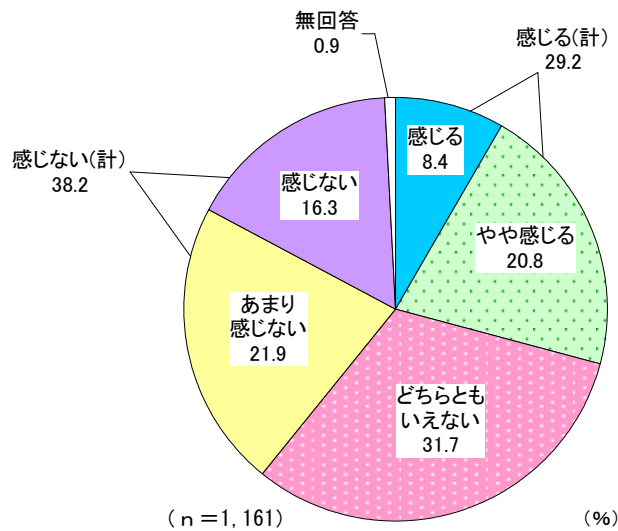
(5) 持ち家（一戸建て）の将来的な考え

持ち家（一戸建て）の将来的な考えは、「考えている」（47.4%）が5割近く、「考えていない」（39.7%）は4割となっています。



（６）市内の自転車マナー

市内の自転車を利用する人の運転・駐輪マナーが守られていると感じるかについては、「感じる」(8.4%)と「やや感じる」(20.8%)を合わせた『感じる(計)』(29.2%)は約3割となっています。一方、「あまり感じない」(21.9%)と「感じない」(16.3%)を合わせた『感じない(計)』(38.2%)は4割近くとなっています。また、「どちらともいえない」(31.7%)は3割を超えています。

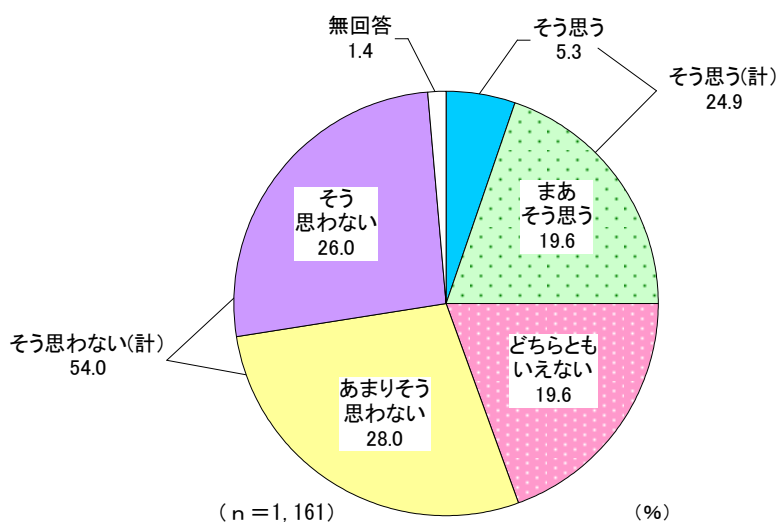


(7) 道路状況

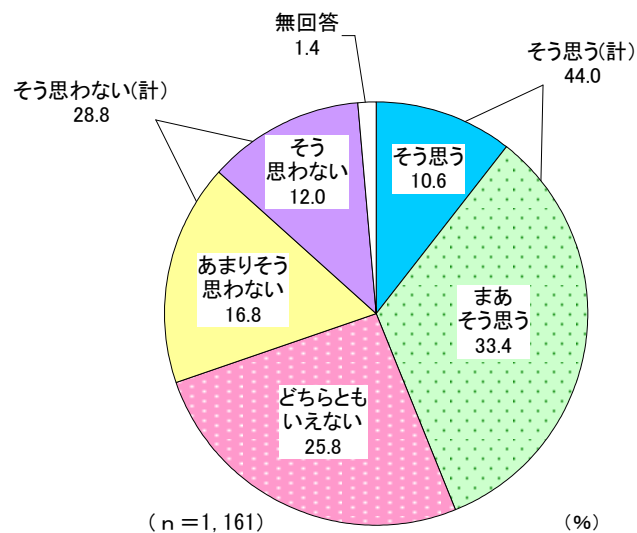
居住地区の道路が安全で快適な環境が確保されていると思うかについては、「そう思う」(5.3%)と「まあそう思う」(19.6%)を合わせた『そう思う(計)』(24.9%)は2割半ばとなっています。一方、「あまりそう思わない」(28.0%)と「そう思わない」(26.0%)を合わせた『そう思わない(計)』(54.0%)は5割半ばとなっています。また、「どちらともいえない」(19.6%)は2割となっています。

市の道路は、市の内外や拠点へアクセスしやすいと思うかについては、「そう思う」(10.6%)と「まあそう思う」(33.4%)を合わせた『そう思う(計)』(44.0%)は4割半ばとなっています。一方、「あまりそう思わない」(16.8%)と「そう思わない」(12.0%)を合わせた『そう思わない(計)』(28.8%)は3割近くとなっています。また、「どちらともいえない」(25.8%)は2割半ばとなっています。

【道路の安全状況】

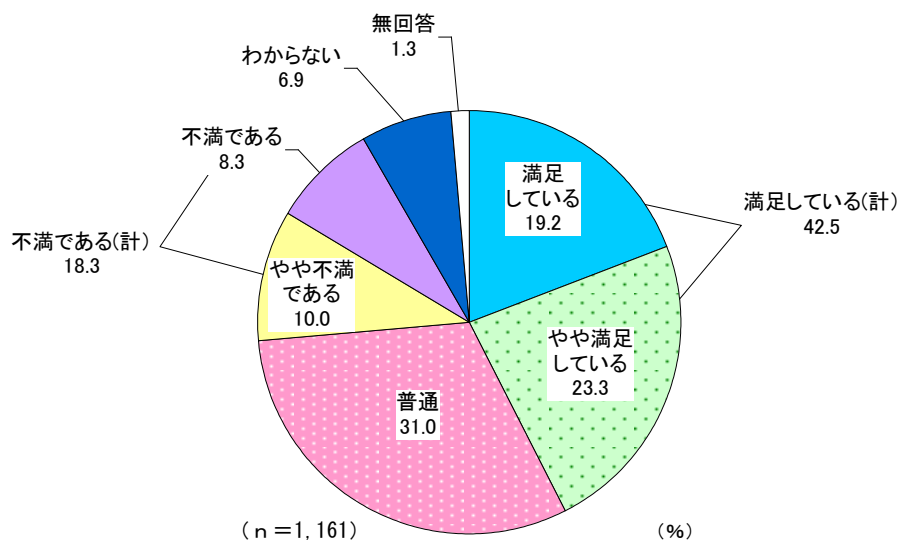


【道路のアクセス状況】



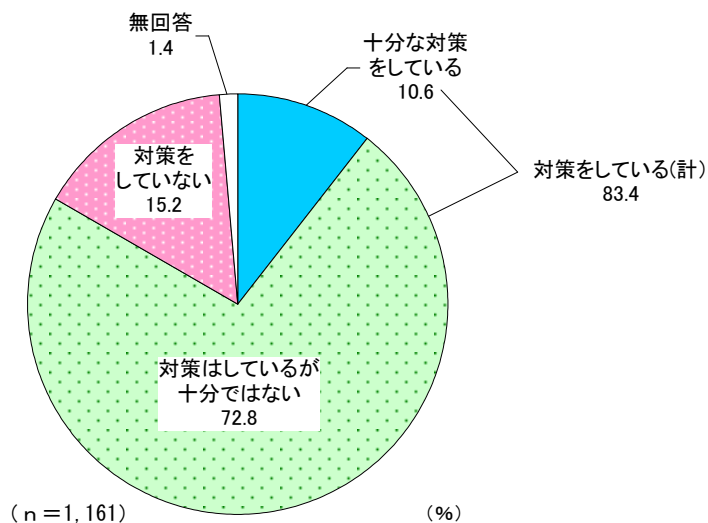
（８）公園や緑地の満足度

市内の公園や緑地に満足しているかについては、「満足している」（19.2％）と「やや満足している」（23.3％）を合わせた『満足している（計）』（42.5％）は4割を超えています。一方、「やや不満である」（10.0％）と「不満である」（8.3％）を合わせた『不満である（計）』（18.3％）は2割近くとなっています。また、「普通」（31.0％）は3割を超えています。



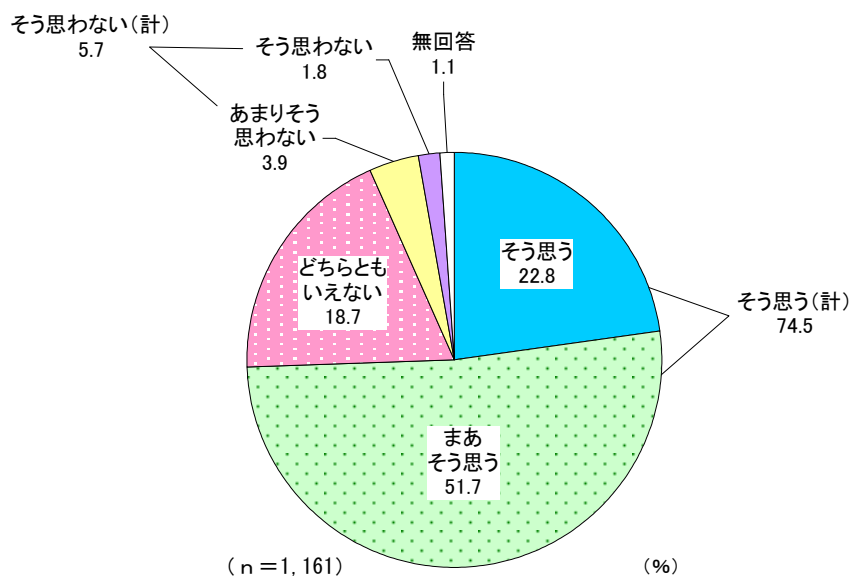
（９）防災対策

防災対策は、「十分な対策をしている」（10.6％）と「対策はしているが十分ではない」（72.8％）を合わせた『対策をしている（計）』（83.4％）は8割を超えています。一方、「対策をしていない」（15.2％）は1割半ばとなっています。



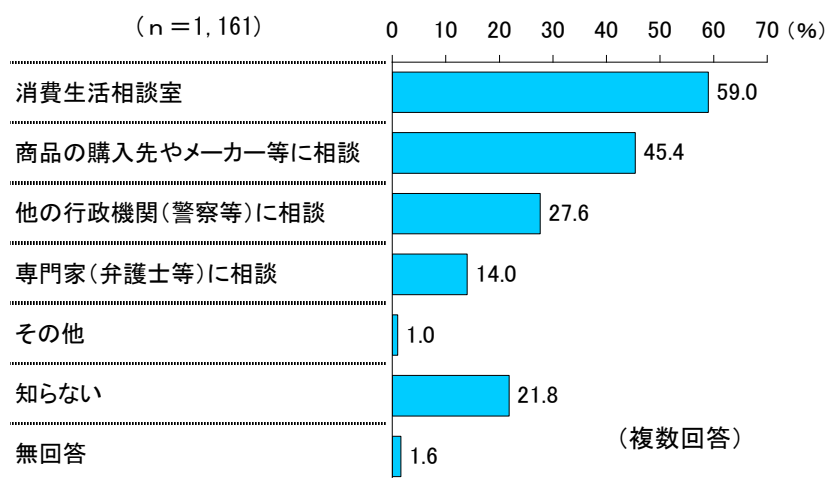
(10) 市の治安状況

国分寺市は治安が良いまちだと思うかについては、「そう思う」(22.8%)と「まあそう思う」(51.7%)を合わせた『そう思う(計)』(74.5%)は7割半ばとなっています。一方、「あまりそう思わない」(3.9%)と「そう思わない」(1.8%)を合わせた『そう思わない(計)』(5.7%)は1割未満となっています。また、「どちらともいえない」(18.7%)は2割近くとなっています。



(11) 消費者トラブルにあった場合の相談窓口の認知状況

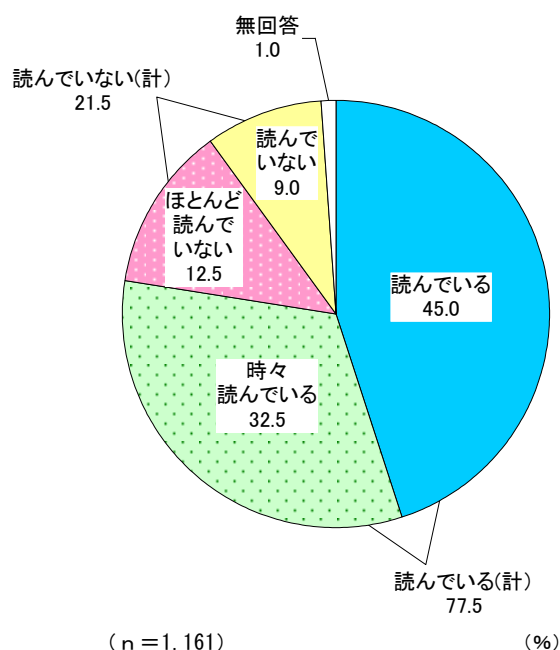
消費者トラブルにあった場合の相談窓口の認知状況は、「消費生活相談室」(59.0%)が約6割で最も高く、次いで「商品の購入先やメーカー等に相談」(45.4%)、「他の行政機関(警察等)に相談」(27.6%)、「専門家(弁護士等)に相談」(14.0%)となっています。一方、「知らない」(21.8%)は2割を超えています。



◇ 公共経営

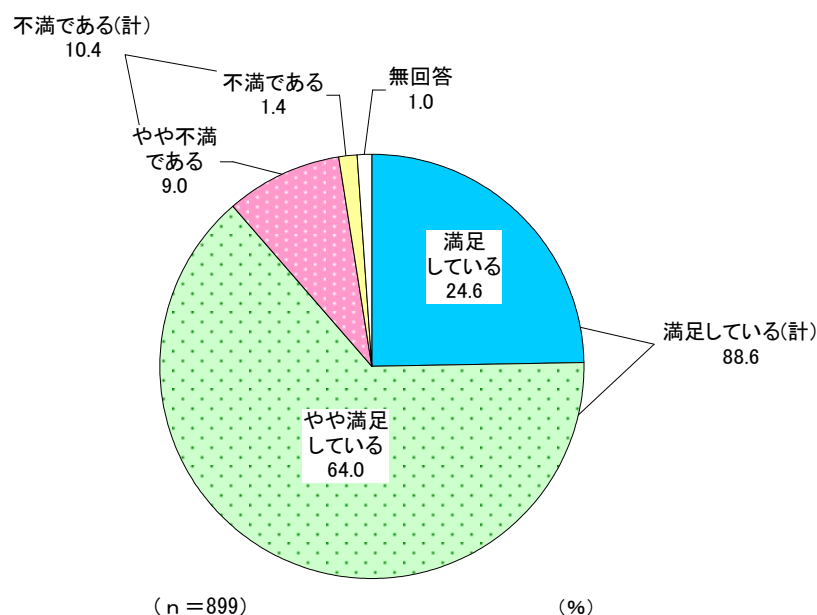
（１）市報こくぶんじの閲読状況

市報こくぶんじの閲読状況は、「読んでいる」(45.0%)と「時々読んでいる」(32.5%)を合わせた『読んでいる(計)』(77.5%)は8割近くとなっています。一方、「ほとんど読んでいない」(12.5%)と「読んでいない」(9.0%)を合わせた『読んでいない(計)』(21.5%)は2割を超えています。



（２）市報こくぶんじの満足度

市報こくぶんじの満足度は、「満足している」(24.6%)と「やや満足している」(64.0%)を合わせた『満足している(計)』(88.6%)は9割近くとなっています。一方、「やや不満である」(9.0%)と「不満である」(1.4%)を合わせた『不満である(計)』(10.4%)は1割となっています。



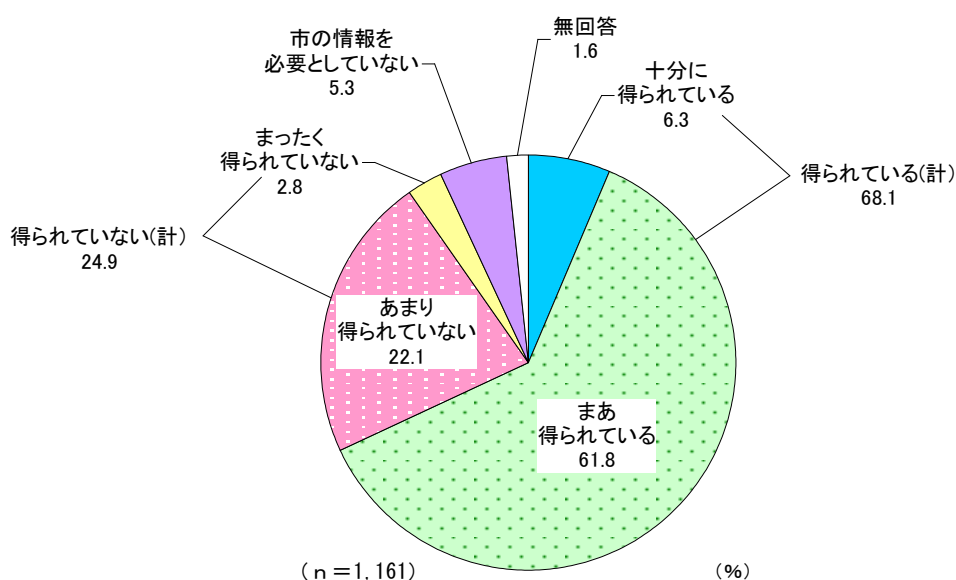
（３）市の情報の入手状況

必要とする市の情報が得られているかについては、「十分に得られている」（6.3％）と「まあ得られている」（61.8％）を合わせた『得られている（計）』（68.1％）は7割近くとなっています。一方、「あまり得られていない」（22.1％）と「まったく得られていない」（2.8％）を合わせた『得られていない（計）』（24.9％）は2割半ばとなっています。また、「市の情報を必要としていない」（5.3％）は1割未満となっています。

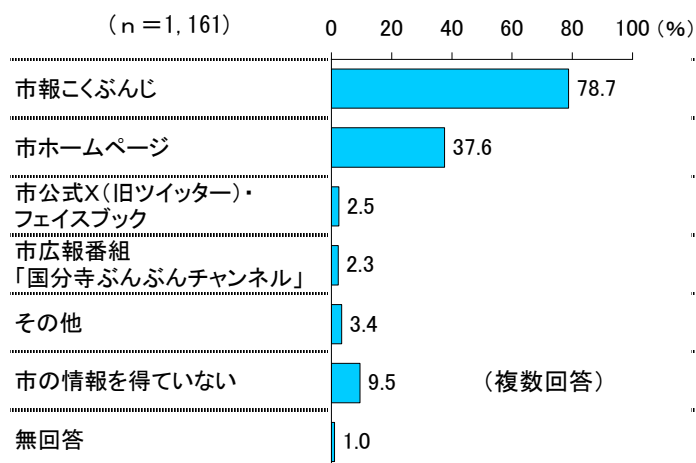
市の情報を何から得ているかについては、「市報こくぶんじ」（78.7％）が8割近くで最も高く、次いで「市ホームページ」（37.6％）となっています。

市の情報を入手しやすいツールは、「市報こくぶんじ」（74.1％）が7割半ばで最も高く、次いで「市ホームページ」（51.9％）、「市公式X（旧ツイッター）」（11.9％）となっています。

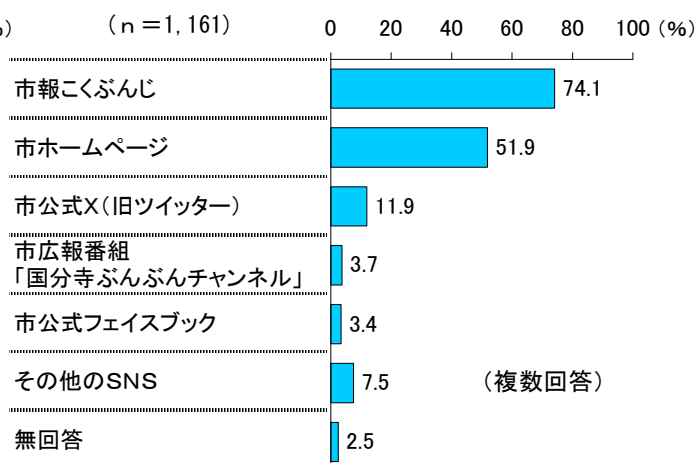
【市の情報の入手状況】



【市の情報の入手先】

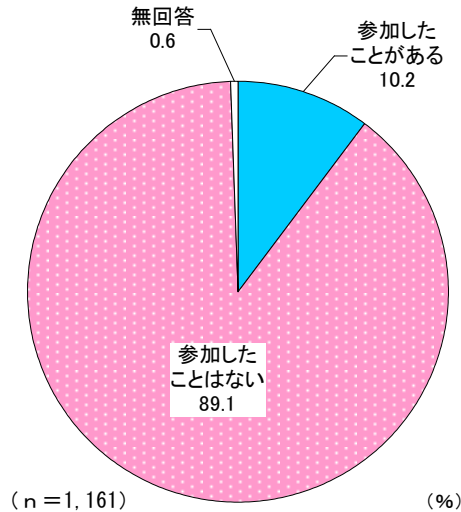


【市の情報を入手しやすいツール】



（４）市が実施する会議等への参加経験

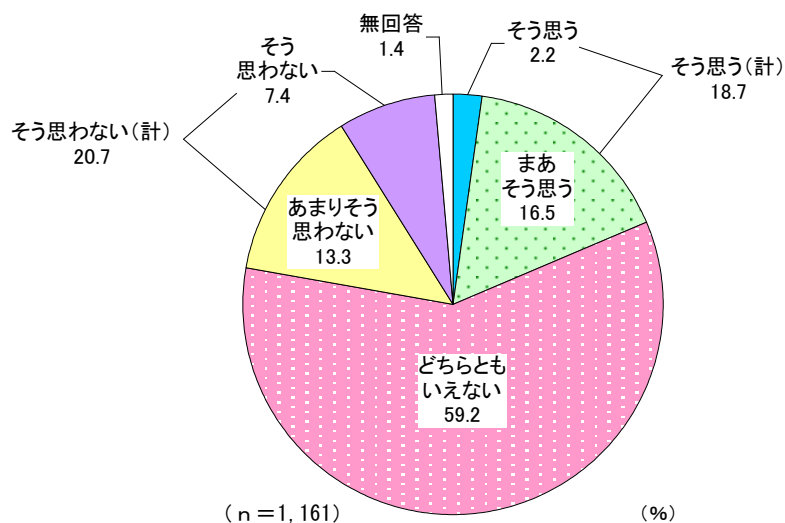
市が実施する会議、説明会、懇談会、市民ワークショップ、パブリック・コメントに参加したことがあるかについては、「参加したことがある」（10.2％）が1割、「参加したことはない」（89.1％）は約9割となっています。



（５）協働*のまちづくり

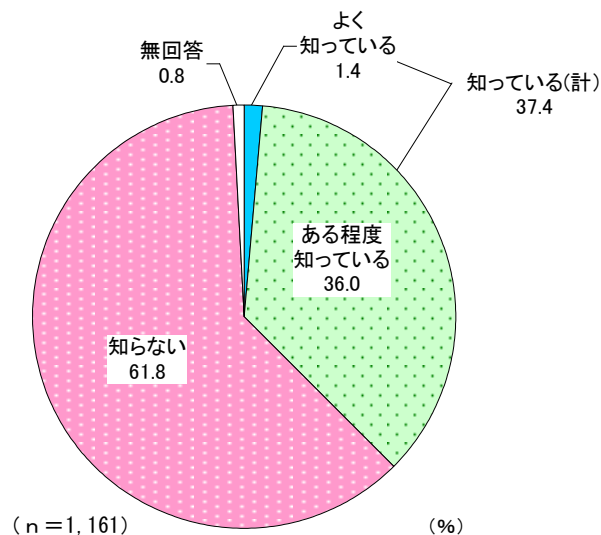
※「協働」・・・市民(市民活動団体)と行政(市)が共に力を合わせ、共通の目的の実現に取り組むこと

「協働」のまちづくりが進んでいると思うかについては、「そう思う」（2.2％）と「まあそう思う」（16.5％）を合わせた『そう思う（計）』（18.7％）は2割近くとなっています。一方、「あまりそう思わない」（13.3％）と「そう思わない」（7.4％）を合わせた『そう思わない（計）』（20.7％）は約2割となっています。また、「どちらともいえない」（59.2％）は約6割となっています。



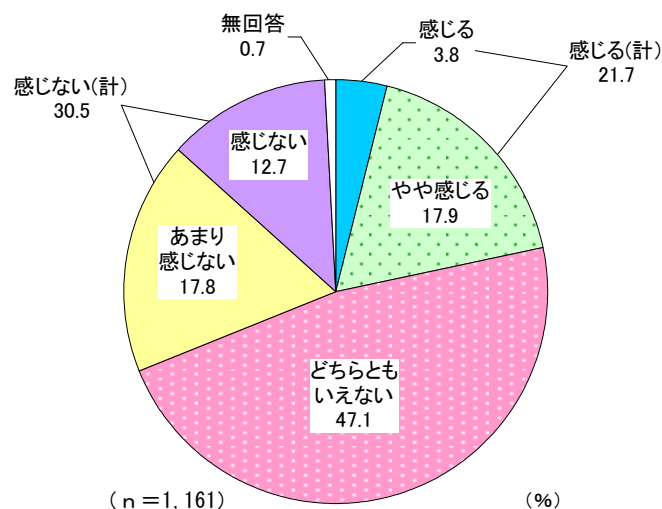
（６）市の財政状況の認知度

市の財政状況の認知度は、「よく知っている」（1.4％）と「ある程度知っている」（36.0％）を合わせた『知っている（計）』（37.4％）は４割近くとなっています。一方、「知らない」（61.8％）は６割を超えています。



（７）市の提供するサービス

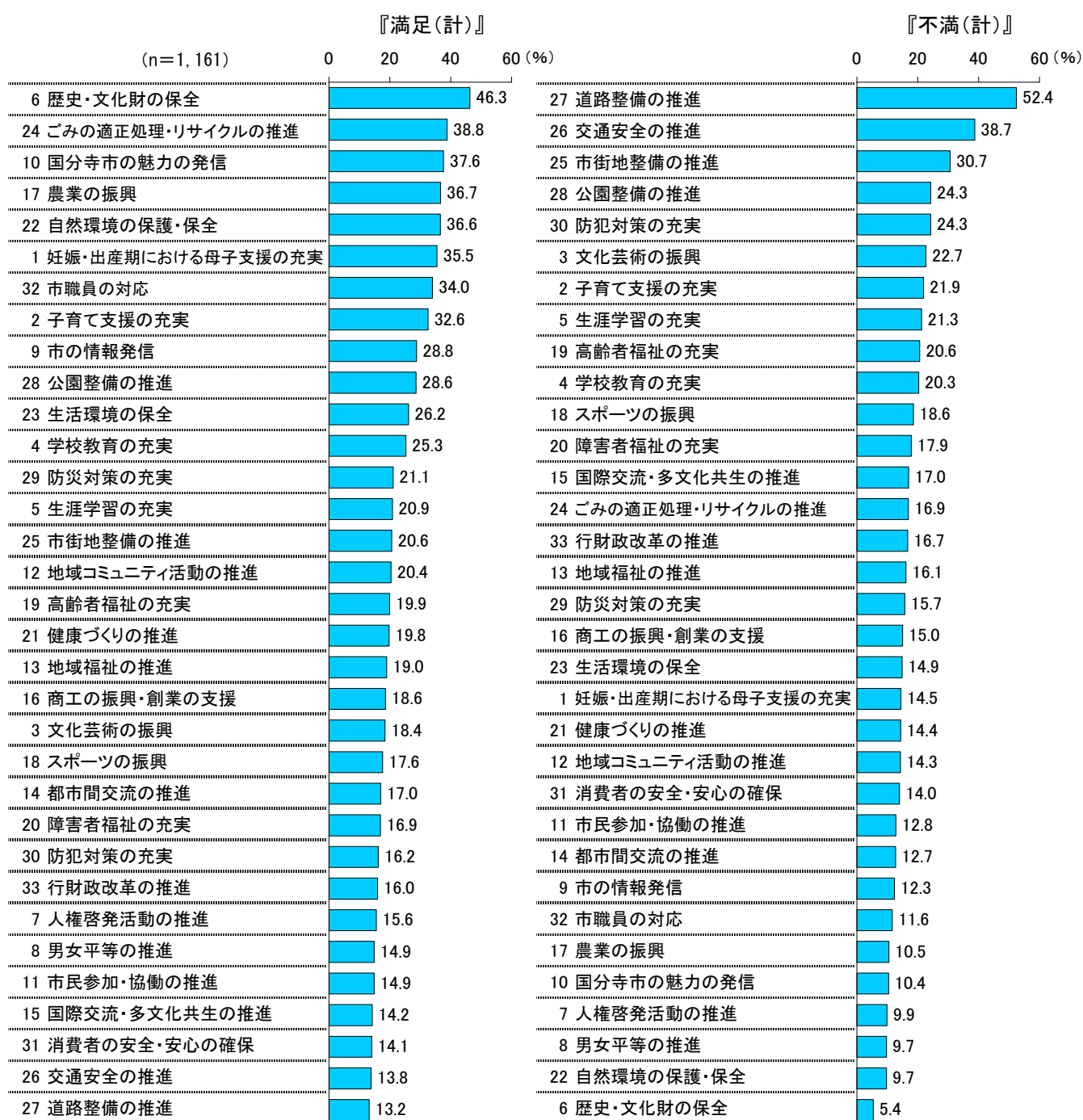
過去１年間で市の提供するサービスが向上や改善をしていると感じるかについては、「感じる」（3.8％）と「やや感じる」（17.9％）を合わせた『感じる（計）』（21.7％）は２割を超えています。一方、「あまり感じない」（17.8％）と「感じない」（12.7％）を合わせた『感じない（計）』（30.5％）は約３割となっています。また、「どちらともいえない」（47.1％）は５割近くとなっています。



◇ 取組への満足度・重要度

(1) 取組への満足度

33項目に分類した現在の市の取組について、「わからない」と「無回答」を除いて満足度を算出したところ、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足(計)』は、[歴史・文化財の保全](46.3%)が4割半ばで最も高く、次いで[ごみの適正処理・リサイクルの推進](38.8%)、[国分寺市の魅力の発信](37.6%)となっています。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満(計)』は、[道路整備の推進](52.4%)が5割を超えて最も高く、次いで[交通安全の推進](38.7%)、[市街地整備の推進](30.7%)となっており、道路・交通やまちの環境整備に関する不満が高い傾向にあります。



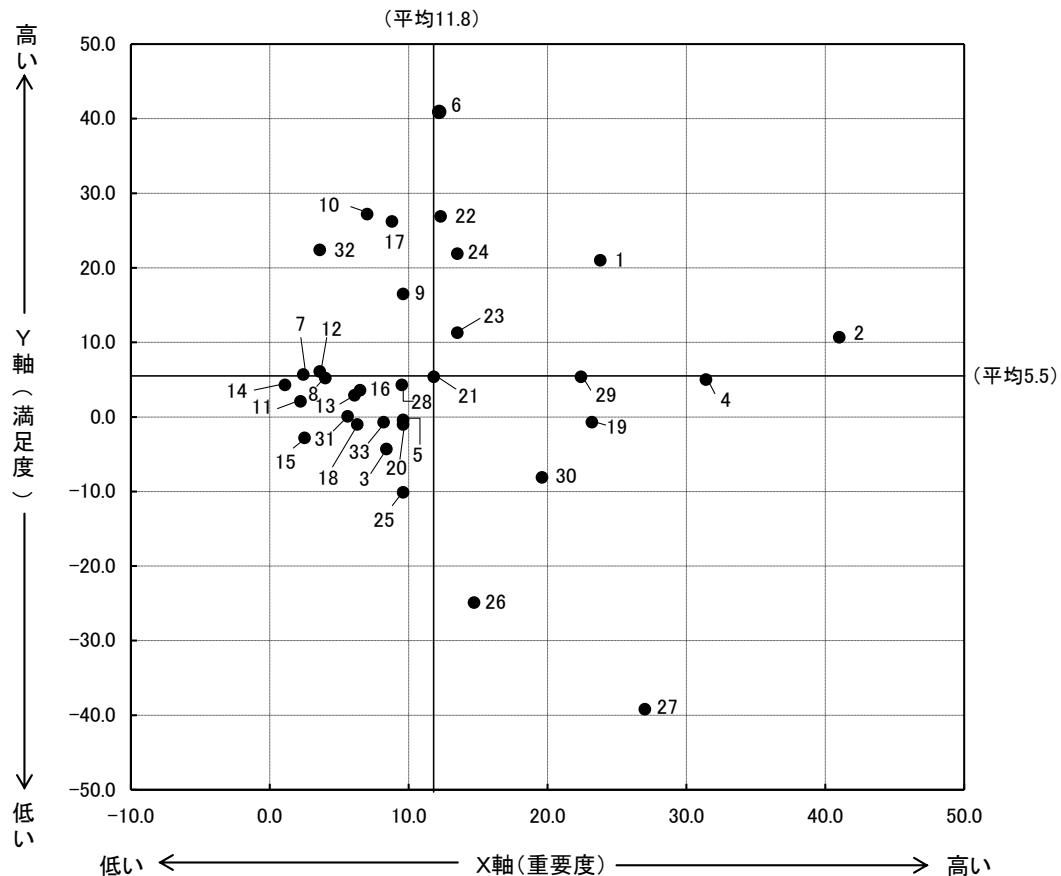
(2) 取組の重要度

33項目のうち重要だと思う取組は、[子育て支援の充実] (41.0%) が4割を超えて最も高く、次いで[学校教育の充実] (31.4%)、[道路整備の推進] (27.0%)、[妊娠・出産期における母子支援の充実] (23.8%) となっています。一方、重要度が低い取組では、[都市間交流の推進] (1.1%) が最も低く、次いで[市民参加・協働の推進] (2.2%)、[人権啓発活動の推進] (2.4%) となっています。



(3) 満足度・重要度分析図

満足度（『満足（計）』と『不満（計）』の差）と重要度をみると、回答者の満足度が低く重要度が高い項目は、[学校教育の充実]、[高齢者福祉の充実]、[健康づくりの推進]、[交通安全の推進]、[道路整備の推進]、[防災対策の充実]、[防犯対策の充実]となっています。



<満足度高・重要度低>		満足度	重要度
7	人権啓発活動の推進	5.7	2.4
9	市の情報発信	16.5	9.6
10	国分寺市の魅力の発信	27.2	7.0
12	地域コミュニティ活動の推進	6.1	3.6
17	農業の振興	26.2	8.8
32	市職員の対応	22.4	3.6

<満足度高・重要度高>		満足度	重要度
1	妊娠・出産期における母子支援の充実	21.0	23.8
2	子育て支援の充実	10.7	41.0
6	歴史・文化財の保全	40.9	12.2
22	自然環境の保護・保全	26.9	12.3
23	生活環境の保全	11.3	13.5
24	ごみの適正処理・リサイクルの推進	21.9	13.5

<満足度低・重要度低>		満足度	重要度
3	文化芸術の振興	-4.3	8.4
5	生涯学習の充実	-0.4	9.6
8	男女平等の推進	5.2	4.0
11	市民参加・協働の推進	2.1	2.2
13	地域福祉の推進	2.9	6.1
14	都市間交流の推進	4.3	1.1
15	国際交流・多文化共生の推進	-2.8	2.5
16	商工の振興・創業の支援	3.6	6.5
18	スポーツの振興	-1.0	6.3
20	障害者福祉の充実	-1.0	9.6
25	市街地整備の推進	-10.1	9.6
28	公園整備の推進	4.3	9.5
31	消費者の安全・安心の確保	0.1	5.6
33	行財政改革の推進	-0.7	8.2

<満足度低・重要度高>		満足度	重要度
4	学校教育の充実	5.0	31.4
19	高齢者福祉の充実	-0.7	23.2
21	健康づくりの推進	5.4	11.8
26	交通安全の推進	-24.9	14.7
27	道路整備の推進	-39.2	27.0
29	防災対策の充実	5.4	22.4
30	防犯対策の充実	-8.1	19.6

※満足度と重要度の高低は、33の施策の平均値（満足度は5.5、重要度は11.8）より高いか低いを表しています。

令和 7 年度国分寺市市民アンケート調査報告書
【概要版】

(令和 7 年 8 月)

- 発行 国分寺市
- 編集 国分寺市政策部政策経営課
〒185-8501 東京都国分寺市泉町 2 - 2 - 18
電話：042-325-0111（代表）
- 実施 株式会社エスピー研
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3 - 11 - 20
電話：03-3239-0071（代表）